

道徳教育の進め方 京都式ハンドブック

規範意識や人を思いやり尊重する心など
豊かな人間性をはぐくむために



平成30年3月(改訂版)



京都府教育委員会

目次

1 道德教育の目標

- (1) 道德教育の目標って何だろう？ 2
- (2) 道德性とは何だろう？ 3
- (3) 道德教育の内容はどのようなものなのだろう？ 4
- (4) 内容項目を正しく理解するためには？ 5

2 道德教育推進上の配慮事項

- (1) 道德教育を推進するときに配慮することは、どのようなことだろう？ 6
- (2) 道德教育は、いつ、どこで行えばよいのだろう？ 7
- (3) 重点的指導とは、どのようなことだろう？ 8
- (4) 全体計画を作成することには、どのような意義があるのだろう？ 9
- (5) 道德教育や道德科の授業は、だれが行うのだろう？ 10
- (6) 幼稚園、小学校、中学校、高等学校を通じての道德教育とは？ 10
- (7) 道德教育は、学校だけで進めていてよいのだろうか？ 11

1 特別の教科 道德

- (1) 道德科の目標って何だろう？ 12
- (2) 道德科はどのような学習をするのだろうか？ 13

2 教材の活用の仕方

- (1) どのような教材を用いたらよいだろう？ 14
- (2) なぜ「読み物教材」がよく活用されるのだろうか？ 15
- (3) 「読み物教材」を吟味するときのポイントは何だろう？ 16
- (4) 指導案を作成する際のポイントは何だろう？ 18
- (5) 発問のポイントはどんなことだろう？ 19
- (6) 心に響く授業にしたい！ そのためのポイントは？ 20
- (7) 「京の子ども 明日へのとびら」とは、どのような資料だろう？ 21

3 道德科の評価

- (1) 児童生徒の何を評価するのだろうか？ 23
- (2) どのように評価するのだろうか？ 23

4 読み物教材の活用実践例

- (1) 実際には、どのような授業をすればよいのだろうか？ 25

高等学校における道德教育の展開 54

はじめに

京都府では、これまで道徳教育の充実に向けて、「心の教育」学習資料集「京のこども 明日へのとびら」と「活用事例集」「実践事例集」の作成・配付や、高等学校での「さわやかハート応援プロジェクト」など、積極的な取組を行ってきました。そして、現在、京都の未来を創造する人間形成に向けた教育の推進のため、「京都府教育振興プラン」（平成 23 年 1 月策定、28 年改定）の重点目標の一つとして「人を思いやり尊重する心など、豊かな人間性をはぐくむ」ことを掲げ、道徳教育の一層の充実を図っているところです。

これを受け、小・中学校においては、道徳教育の全体計画及び「道徳の時間」の年間指導計画の改善とともに、「道徳の時間」についても、各教科等との関連をもたせた指導や、地域や児童生徒の実態に応じた特色のある取組が進められています。

しかし、一方で、「道徳の時間」の年間指導計画の中で授業展開の概要や指導方法等まで示している学校は、100%に至っていない状況にとどまっており、道徳教育全体計画の別葉の作成と併せ、道徳の教科化を見据えた取組の一層の充実が求められるところです。また、中学校における生徒指導上の課題からも、道徳教育のさらなる充実が喫緊の課題であるといえます。さらに、高等学校においては、学校の教育活動全体を通じて人間としての在り方生き方に関する教育を進めるために、小・中学校段階からの継続した道徳教育を推進することが求められています。

本書は、各学校の教職員が学習指導要領の趣旨に沿って道徳教育を実施するための基礎的理解を深めるための研修資料として、まず、前半部分に理論編を設けています。また、実際の指導を改善するための実践研究の資料として、後半部分には「読み物教材」を使った学習指導案の例を掲載しています。記述に際しては、学習指導要領及び解説編を踏まえつつ、実践場面に即したわかりやすい表現を心がけています。その趣旨から、典型と考えられる一例として、想定される児童生徒の発言や指導者の発問などの具体例を挙げています。

なお、本書の編集に先立って、「道徳の時間」の指導に当たる教員の課題意識を把握するため、京都府総合教育センターの研修受講者を対象としたアンケートを実施しました。本書は、そこで明らかになった教員の疑問や課題意識にこたえられる内容構成にしています。各章の内容・紙面は、疑問・質問に答える形で作成し、目次によって必要な項目が手軽に見つけ出せるように工夫しています。

本書の作成に当たっては、学識経験者、道徳教育研究会関係者、そして、小・中・高等学校で実践研究を進めている教員からなる編集委員会を通じて、道徳教育にかかわる理論整理、実践事例の提供、文案の検討などについてお世話になりました。御協力いただいた皆様方には、この場をお借りし、改めて感謝申し上げます。

本書が各学校での研修や授業改善の資料として大いに活用され、京都府における道徳教育が一層推進されることを期待しています。

なお、学習指導要領の一部改正（平成 27 年 3 月）に伴い、昨年度に内容を改訂したところですが、「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」（平成 29 年 6 月）及び「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」（平成 29 年 7 月）における評価に関する記述を踏まえて、本年度改めて内容を改訂しました。

第1章 学校教育と道徳教育

1 道徳教育の目標



(1) 道徳教育の目標って何だろう？

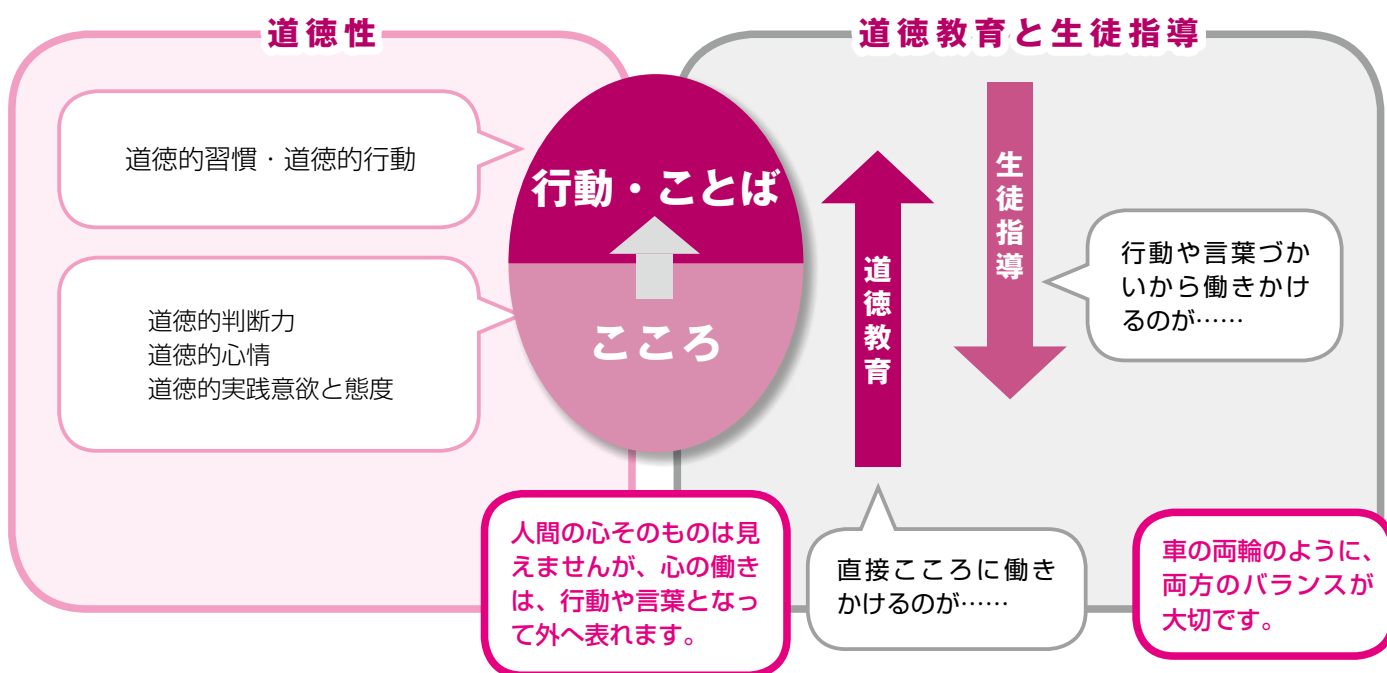
道徳教育の目標は「道徳性」の育成です。



道徳教育は、人間が本来もっている「人間としてよりよく生きたい」という願いに基づいてよりよい生き方を求め実践する人間の育成を目指し、その基盤となる道徳性を養う教育活動です。

道徳性とは「人間としての本来的な在り方やよりよい生き方を目指してなされる道徳的行為を可能にする人格的特性」です。またそれは、人間らしいよさであり、人格の基盤となるものです。

学校における道徳教育では、道徳的判断力・心情・実践意欲と態度などの道徳性を養うことが目標です。



※この図は、わかりやすくするために単純化した図式で例示的に表したものです。

人間としてよりよく生きるために—人格の基盤としての道徳性の育成—

人間は、本来、人間としてよりよく生きたいという願いをもっています。

道徳教育は、人間が本来もっているこのような願いやよりよい生き方を求め実践する人間の育成を目指し、その基盤となる道徳性を養う教育活動です。

また、教育は人格の完成を目標としていますが、道徳教育はこの人格の形成の基本に関わるものです。それぞれの人格は、人間社会における様々な関わりや自己との対話を通し形成されていきます。その過程において、人間は様々な夢を描き、希望をもち、悩み、苦しみ、人間としての在り方や生き方を自らに問い掛けながら生きていきます。この問い掛けを繰り返すことによって、人格もまた磨かれていきます。



(2) 道德性とは何だろう？

学校における道德教育で養うこととされている道德性は、道德的判断力、道德的心情、道德的实践意欲と態度などの諸様相です。



道德的判断力

様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるかを判断する能力

- ・それぞれの場面において善悪を判断する能力
- ・それぞれの場面において機に応じた道德的行為が可能になる力

例えば……
これをすると、家族はどう思うかな？
こうしたら、将来の自分はどうか？
この行為は、相手にとっても良いことかな？
などを考え、人間としてどのように対処することが望ましいかを判断する能力



道德的心情

道德的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情

- ・人間としてのよりよい生き方や善を志向する感情
これは、道德的行為への動機として強く作用するものです。

例えば……
善いことをしたときには、嬉しい！
間違ったことをしてしまったら、もやもやするような感情



道德的实践意欲と態度

道德的判断力や道德的心情によって価値があるとされた行動をとろうとする傾向性

- ・道德的实践意欲とは、道德的判断力や道德的心情を基盤とし道德的価値を実現しようとする意志の働き
- ・道德的態とは、それらに裏付けられた具体的な道德的行為への身構え

例えば……
夢や目標にむかって、がんばるぞ！
困っているみたいだな。よし、声をかけよう！
人として、だめなものはだめなんだ！
人として恥ずかしくない行動をとろう！とする意欲と心構え



学校教育の様々な場面において、具体的な道德的習慣や道德的行為について指導を行うことがあります。その際には、指導を通じてそれらの意義を理解し、自らの判断により、進んで適切な実践ができるような道德性を養うことが最終的なねらいです。

道德教育は、「人生いかに生きるべきか」という生き方の問題と云いかえることができます。したがって、道德教育においては、児童生徒のよりよく生きようとする願いにこたえるために、児童生徒と教師が共に考え、共に探求していくことが前提となります。

私たちは、日々の生活における様々な関わりを通して、人間としての在り方を自覚し、よりよい生き方を求めていきます。道德教育では、それらの関わりを自分自身、他の人、生命や自然、崇高なもの及び社会などの視点で捉え、教育内容を内容項目として分類整理しています。それらの内容項目を窓口により、道德性を育みます。



(3) 道德教育の内容は
どのようなものなのだろう？

学習指導要領では、四つの
視点に分けて示しています。



道德教育の内容

A の視点

主として自分自身に関すること

自己の在り方を自分自身との関わりで捉え、望ましい自己の形成を図ることに關するもの。

B の視点

主として人との関わりに関すること

自己を人との関わりにおいて捉え、望ましい人間関係の構築を図ることに關するもの。

C の視点

主として集団や社会との関わりに関すること

自己を様々な社会集団や郷土、国家、国際社会との関わりにおいて捉え、国際社会と向き合うことが求められている我が国に生きる日本人としての自覚に立ち、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な道德性を養うことに關するもの。

D の視点

主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

自己を生命や自然、美しいもの、気高いもの、崇高なものとの関わりにおいて捉え、人間としての自覚を深めることに關するもの。

内容項目は、児童生徒が人間として他者とよりよく生きていく上で学ぶことが必要と考えられる道德的価値を含む内容を、短い文章で平易に表現したものです。学習指導要領では、児童生徒の道德性を四つの視点から捉え、その視点から内容項目を分類整理し、内容の全体構成や相互の関連性と発展性を明確にして学年段階ごとに示されています。それぞれの内容項目の発展性や特質及び児童生徒の発達の段階など全体にわたって理解し、児童生徒が主体的に道德性を養うことができるようにしていく必要があります。内容項目は、その全てが道德科を要として学校の教育活動全体を通じて行われる道德教育における学習の基本となるものです。実態に即した指導を進めるためにはそれぞれの内容項目について、教師が理解を深めることが欠かせません。

道德の内容は、教師と児童生徒が人間としてのよりよい生き方を求め、共に考え、共に語り合い、その実行に努めるための共通の課題であるとされています。

道德の内容項目は、学校の教育活動全体の中で、様々な場や機会を捉え、多様な方法によって進められる学習を通して、児童生徒自らが調和的な道德性を養うためのものです。道德教育の要としての道德科はもとより、すべての教育活動において指導すべき内容です。また、内容項目は児童生徒自らが道德性を養うための手掛かりとなるものです。したがって、各内容項目を児童生徒の実態を基に把握し、指導上の課題を具体的に捉え、実態に応じた指導をしていくことが大切です。そして、内容項目を児童生徒の立場から具体的に捉えるための一助になるのが「私たちの道德」や「心のノート」です。



(4) 内容項目を正しく理解するためには？

学習指導要領解説を読みましよう！「私たちの道德」も参考になります！



学習指導要領解説の「第3章 道德科の内容 第2節 内容項目の指導の観点」をしっかりと読み込むことが大切です。また、小学校1・2年から中学校までの内容項目を比べてみると、道德性の発達の段階が見えてきます。その発達の段階を理解することで、内容項目の理解が一層深まります。

具体的に子どもたちの生活の中で考えるとどうということなのかをわかりやすい言葉と写真やイラストで解説しているのが「私たちの道德」です。ぜひ、活用してください。

例えば、「生命の尊さ」に関わる内容項目では……

1・2年

生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること。

「わたしたちの道德」では……



中学校

生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。

「私たちの道德」では……



3・4年

生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすること。

「わたしたちの道德」では……



5・6年

生命が多くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること。

「私たちの道德」では……



2 道徳教育推進上の配慮事項



(1) 道徳教育を推進するときに配慮することは、どのようなことなのだろう？

道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行うものです。次の配慮事項を確認しておきましょう。



校長の方針の下に、道徳教育推進教師を中心に、全教師が協力して展開する。

児童生徒の発達の段階を踏まえ、指導内容の重点化を図る。

学校や学級内の人間関係や環境を整える。

集団宿泊活動やボランティア活動、自然体験活動、地域の行事への参加など豊かな体験を充実する。

児童生徒の日常生活に生かされるようにする。

家庭や地域社会との共通理解を深め、相互の連携を図る。

《学校や学級内の人間関係や環境を整える》

児童生徒の道徳性の多くの部分は、日々の人間関係の中で養われます。教師と児童生徒の人間関係は、教師に対する児童生徒の尊敬と共感、児童生徒に対する教師の教育的愛情、そして相互の信頼が基本になります。教師自身がよりよく生きようとする姿勢を示したり、教師が児童生徒を尊重し児童生徒から学ぼうとする姿勢を見せたりすることで信頼が強化されていきます。そのためにも、教師と児童生徒が共に語り合うことのできる場を日常から設定し、児童生徒を理解する有効な機会となるようにすることが大切です。また、児童生徒相互の人間関係を豊かにするには、相互の交流を深め、互いが伸び伸びと生活できる状況をつくることが大切です。児童生徒一人一人が互いに認め合い、励まし合い、学び合う場と機会を意図的に設けることが必要です。

教師と児童生徒が人間としてのよりよい生き方を求め、共に考え、共に語り合う道徳科の時間は、まさにそのような場だといえます。

《道徳教育の指導内容と児童生徒の日常生活》

道徳教育で養う道徳性は、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となるものです。日常生活においても、人から言われるからといった理由や周りのみんながしているからといった理由ではなく、物事を多面的・多角的に考え、自らの判断により、適切な行為を選択し、実践するなど、道徳教育で育まれた道徳性が児童生徒の日常生活に生かされるようにすることが大切です。

いじめの防止や安全の確保といった課題についても、道徳教育や道徳科の特質を生かし、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことで、児童生徒がそれらの課題に主体的に関わるができるようにしていくことが大切です。道徳教育においては、道徳科を要とし、教育活動全体を通して、生命を大切にす心や互いを認め合い、協力し、助け合うことのできる信頼感や友情を育むことをはじめとし、節度のある言動、思いやりの心、寛容な心などをしっかりと育てることが大切です。



(2) 道德教育は、いつ、
どこで行えばよいのだろ
う？

道德教育は、学校の教育
活動全体で行わなければ
なりません。



学校の教育活動全体とは、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動など、全ての教育活動を指します。各教科等の指導を通じて児童生徒の道德性を養うためには、教師の用いる言葉や児童生徒への接し方、授業に臨む姿勢や熱意といった教師の態度や行動も大きく影響します。また、次の視点が大切です。

- ア 道德教育と各教科等の目標、内容及び教材との関わり
- イ 学習活動や学習態度への配慮

例えば教科の中で次のような点を意識することが大切です。

小学校理科 では

◇教科の目標◇

「自然に親しみ、見通しをもって観察、実験などを行い、問題解決の能力と自然を愛する心情を育てるとともに、自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図り、科学的な見方や考え方を養う。」

- 栽培や飼育などの体験活動を通して自然を愛する心情を育てる。
→生命を尊重し・自然環境を大切にする態度の育成につながる。
- 見通しをもって観察、実験を行うことや、問題解決の能力を育て、科学的な見方や考え方を養う。
→真理を大切にしようとする態度の育成に資する。

中学校保健 体育科では

◇教科の目標◇

「心と体を一体として捉え、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。」

- 集団でのゲームなど運動をすることを通して
→粘り強くやり遂げる、ルールを守る、集団に参加し協力するといった態度が養われる。
- 健康・安全についての理解
→生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直すことにつながる。

道德科は、各教科等における道德教育を、補ったり、深めたり、相互の関連を考慮して発展させたり、統合させたりする要としての役割があります。

各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動にはそれぞれ固有の目標や特質があり、それらを重視しつつ教育活動が行われます。しかし同時に、それぞれの教育活動においても道德教育の役割をも担っています。道德科は、道德性を養うことを目指すものとして、その中核的な役割を果たすことから、道德教育における「要」と位置付けられています。

各教科等の目標や内容、教材、学習活動や学習態度への配慮には、児童生徒の道德性を養うことに関わりの深い事柄が含まれています。また、各教科等において道德教育を適切に行うためには、まずそれぞれの特質に応じて道德の内容に関わる事項を明確にする必要があります。それらに含まれる道德的価値を意識しながら学校独自の重点内容項目を踏まえて指導することが大切です。



(3) 重点的指導とは、
どのようなことだろう？

各学校の道徳教育の目標
を踏まえ、重点的に指導
する内容項目を設定し、
計画的、発展的に指導す
ることです。



① 育てたい児童生徒の姿を明確に しましょう。



私の学校では、「しっかりとした規範意識を
もち、相手のことを思いやれる人間に育っ
てほしいと願っています。」

本校の、道徳教育のポイントは、
「規範意識」と「思いやり」ですね。



育てたい児童生徒像をもとに、
自校の道徳教育のポイントを確認します。

② 重点目標を確認しましょう。



これまでの本校の道徳教育の目標は、「人間尊重の
精神を生かし、道徳的判断力、道徳的心情、道徳的
実践意欲と態度を高め、道徳性を養う。」でした。

漠然とした目標では、学校として何を重点に道
徳教育を行うのかが分かりにくいですね。
先ほど明確にした、本校の道徳教育のポイント
である「規範意識」と「思いやり」を基に、よ
り具体的な目標を考えてみましょう。



「人間尊重の精神を生かし、思いやりの
心をもって、規範を尊重しようとする生
徒を育成する。」と改善しました！

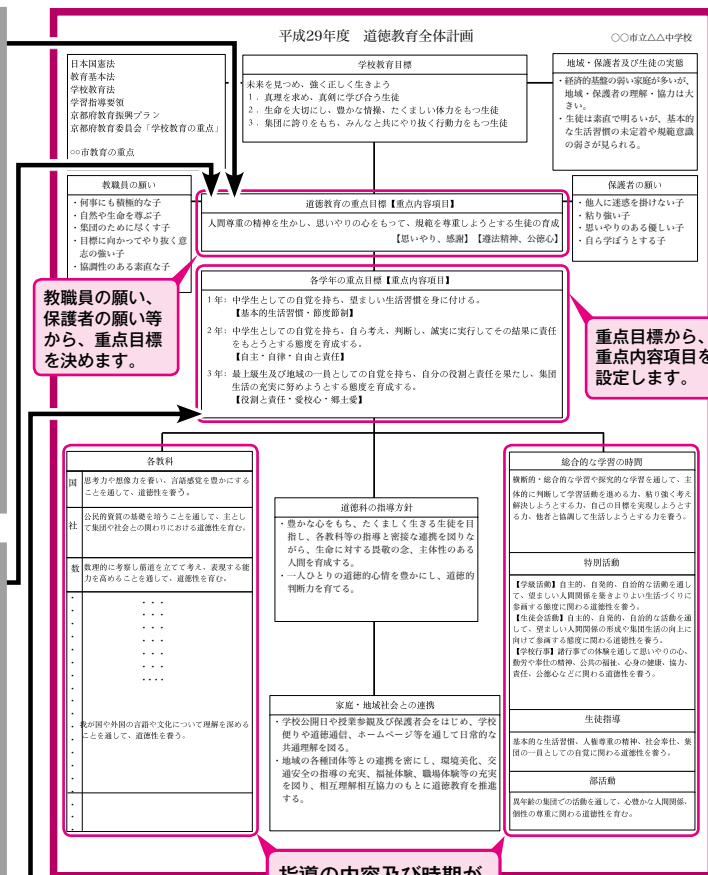
具体的で、分かりやすくなりましたね。

③ 重点内容項目を確認しましょう。



本校の道徳教育のポイントは「規範意識」と「思
いやり」ですから、重点内容項目は、Bの視
点の「思いやり、感謝」とCの視点の「遵法
精神、公德心」になりますね。

- 各教科や外国語活動、総合的な学習の時間、特
別活動等において、これらの内容項目にかかわ
る指導がいつ、どのように行えるかを考えてみ
ましょう。これを、一覧表にしたものが、全体
計画の「別業」になります。
- 道徳科の指導の重点にもなり、年間指導計画で
も複数回位置付けられる内容項目になります。



指導の内容及び時期が
書ききれない！
だから、別業にして
加える必要があります。

各学校においては、道徳教育の目標を踏まえ、
道徳教育の全体計画を作成し、校長の方針の下に、
道徳教育推進教師を中心に、全教職員が協力して
道徳教育を展開すること。なお、道徳教育の全体
計画の作成に当たっては、児童生徒、学校及び地
域の実態を考慮して、学校の道徳教育の重点目標
を設定するとともに、道徳科の指導方針、道徳科
の内容との関連を踏まえた各教科、外国語活動、
総合的な学習の時間及び特別活動における指導の
内容及び時期並びに家庭や地域社会との連携の方
法を示すことと示されています。

どのような内容を重点的に指導するかは、最終的には、各学校が学校の実情や児童生徒の実態などを踏まえ
決定するものですが、その際には社会的な要請や今日的課題について配慮することも大切です。



(4) 全体計画を作成することには、どのような意義があるのだろうか？

学校としての重点目標を明確にし、全教師が共有することで、学校の教育活動全体で行う道德教育に方向性をもたせることができます。全教師が全体計画と別葉の作成に参加し、その活用を図ることで、道德教育の方針やそれぞれの役割についての理解が深まり、組織的で一貫した道德教育が展開できるようになります。

また、道德教育の要としての道德科の位置付けや役割を明確にすることができ、道德科の年間指導計画を作成するよりどころにもなります。



全体計画を一覧表にして示す場合は、必要な各事項について文章化したり具体化したりしたものを加えるなどの工夫が必要です。例えば、各教科等における道德教育に関わる指導の内容及び時期を整理したもの、道德教育に関わる体験活動や実践活動の時期等が一覧できるもの、道德教育の推進体制や家庭や地域社会との連携のための活動等が分かるものを別葉にして加えるなどして、年間を通じて具体的に活用しやすいものにすることが大切です。

別葉の様式は、様々なものが考えられますが、ここでは、3つの例を紹介します。

①教科等を縦軸、内容項目を横軸に整理した例

学校の重点目標		①人間関係の情勢を正しく、思いやり的心をもつて、積極性を発揮しようとする態度を育成する。 ・観察、思いやり（積極的関与）									
学年の重点目標		・道徳や生活に働きかけ、物事を大切にし、周りに思いやりを伝える。（態度、態度） ・道徳や生活に働きかけ、物事を大切にし、周りに思いやりを伝える。（態度、態度） ・道徳や生活に働きかけ、物事を大切にし、周りに思いやりを伝える。（態度、態度）									
内容 項目	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他
特別 支援 教育	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他
道徳 教育	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他
道徳 教育	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他
道徳 教育	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他
道徳 教育	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他
道徳 教育	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他
道徳 教育	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他
道徳 教育	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他
道徳 教育	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他
道徳 教育	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他
道徳 教育	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他
道徳 教育	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合 教育 特別 支援 教育 その他
道徳 教育	道徳 教育 生活 教育 社会 教育 自然 教育 国際 教育 情報 教育 職業 教育 体育 教育 芸術 教育 科学 教育 総合										



(5) 道德教育や
道德科の授業は、
だれが行うのだろう？

校長の方針の下に道德教育推進教師を中心として
全教師が協力して取り組
むことが大切です。



校長は道德教育の充実・改善の方向を視野におきながら、学校の教育目標との関わりにおいて、道德教育の基本的な方針等を明示する必要があります。

それに基づいて全教師が協力し、学校の道德教育の諸計画を作成し、展開していくことが大切です。
その際、道德教育を充実させていくために道德教育推進教師が位置付けられています。

学校が組織体として一体となって道德教育を進めるためには、その実態や課題等に応じて、学校として推進すべき事項を明らかにした上で、道德教育推進教師の役割についても押さえておくことが重要になります。道德教育推進教師が全体を掌握しながら、全教師の参画、分担、協力の下に道德教育が円滑に推進され、充実していくように働きかけていくことが望まれます。そして、各教師がそれぞれの役割意識を持ち、自らの役割を進んで果たすことが求められます。そのために、全教師が指導力を発揮し、協力して道德教育を展開できる体制を整える必要があります。

道德科においては、主として学級の児童生徒を周到に理解している学級担任が計画的に進めるものですが、学校の道德教育の目標を達成させる意味から学校や学年として一体的に進めなければなりません。全てを学級担任任せにするのではなく、全教師が協力し合う指導体制を充実することが大切になります。



(6) 幼稚園、小学校、
中学校、高等学校を
通じての道德教育とは？

幼稚園から高等学校まで、
発達の段階を踏まえて
行うことが大切です！



社会の一員としての自己の生き方を探求するなど人間としての在り方
生き方についての自覚を一層深める指導を充実することが大切です。

高等学校

人間としての**在り方生き方**
への自覚を一層深める。

思春期の特徴を考慮し、社会との関わりを踏まえ、人間としての生き
方を見つめさせる指導を充実することが大切です。

中学校

人間としての**生き方への**
自覚を促す。

生きる上で基盤となる道德的価値観の形成を図る指導を徹底すると
ともに自己の生き方についての指導を充実することが大切です。

小学校

自己の生き方についての
考えを深める。

各領域を通して総合的な指導を行い、規範意識の芽生えを培うことが
大切です。

幼稚園

道德性の**芽生え**を培う。

各学校においては、これらのことを踏まえ、児童生徒の実態を十分考慮して、何をどのように指導すればよいのか、という指導の基本的配慮事項を確認しておくことが大切です。



(7) 道德教育は、学校だけで進めていてよいのだろうか？

学校、家庭、地域社会がそれぞれの役割を果たし、それらの間に一貫した方針が保たれることが大切です。



特に、日常生活における基本的な生活習慣や望ましい人間関係、社会生活上のルールなどの規範意識にかかわる道德実践の指導は、家庭や地域社会の果たす役割が大きいといえます。



学 校

学校と家庭・地域社会との連携



家庭・地域社会

- こんな心を育てたい。
- こんな道德教育をしています。
- こんなことを一緒にしましょう。

発 信

我が家でも取り組んでみよう。

- 地域人材を活用した道德科・総合的な学習の時間・生活科などの授業
- 読み聞かせボランティア

協 力

こんな体験・思いを伝えたい。

- 道德科の内容や子どもの様子を見てほしい。

道德科の参観 ＋ 懇談会

こんなことを道德教育で育ててほしい。

例えば、こんな取組が……

学校だより、PTAの文集など、校内全校配付の文集に「京の子ども 明日へのとびら」の1節を掲載する。

授業参観で道德の授業を公開する。地域の方々にも公開する。

登下校時を活用して、学校・地域社会が協力してあいさつ運動を展開する。横断幕を作って盛り上げる。

地域社会に向けた道德教育や特別活動だよりを発行し、道德科の授業の様子を伝える。

地域の人といっしょに、休日ゴミ拾いボランティア「キッズC (Clean) C (Communication) 隊活動」(木津川市)に参加させる。

「道德だより」で道德科の授業のねらいや内容、子どもの発言などを伝える。

第2章「特別の教科 道徳」の進め方

1 特別の教科 道徳



(1) 道徳科の目標
って何だろう？

道徳科の目標は、道徳的判断
力、道徳的心情、道徳的实践
意欲と態度の育成です。



道徳科の目標は、学校の道徳教育全体を通じて行う道徳教育の目標と同様に、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことです。

道徳性とは、人間としてよりよく生きようとする人格的特性であり、道徳教育は道徳性を構成する諸様相である道徳的判断力、道徳的心情、道徳的实践意欲と態度を養うことが求められています。

道徳的判断力

様々な状況下において人間としてどのように
対処することが望まれるかを判断する能力

道徳的心情

道徳的価値の大切さを感じ取り、
善を行うことを喜び、悪を憎む感情

道徳的实践意欲と態度

道徳的心情や道徳的判断力によって価値が
あるとされた行動をとろうとする傾向性

道徳性

行動・ことば

道徳的習慣・道徳的行為

こころ

道徳的判断力
道徳的心情
道徳的实践意欲と態度

「特別の教科 道徳」の目標

道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己（人間として）の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。（ ）は中学校

道徳性の諸様相には、特に序列や段階があるということではありません。一人一人の児童生徒が道徳的価値を自覚し、自己（人間として）の生き方についての考えを深め、日常生活や今後出会うであろう様々な場面、状況において、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるような内面的資質を意味しています。

道徳性を養うことを目的とする道徳科においては、その目標を十分に理解して、教師の一方的な押しつけや単なる生活経験の話合いなどに終始することのないように特に留意し、それにふさわしい指導の計画や方法を講じ、指導の効果を高める工夫をすることが大切です。道徳性は、徐々に、しかも着実に養われることによって、潜在的、持続的な作用を行為や人格に及ぼすものであるだけに、長期的展望と綿密な計画に基づいた丹念な指導がなされ、道徳的实践につなげていくことができるようにしなければなりません。

※よりよく生きていくための資質・能力を培うという趣旨を明確化するため、従前の「道徳的实践力を育成する」ことは、具体的に「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」と改められました。



(2) 道徳科ではどのような学習をするのだろうか？

道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の生き方（人間としての生き方）についての考えを深める学習をします。（ ）は中学校。



道徳的諸価値についての理解を基に

道徳的価値とは、よりよく生きるために必要とされるものであり、人間としての在り方や生き方の礎となるものです。学校教育においては、これらのうち発達の段階を考慮して、児童生徒一人一人が道徳的価値観を形成する上で必要なものを**内容項目**として取り上げています。

道徳的価値について理解するとは、道徳的価値の意味を捉えること、またその意味を明確にしていくことです。

ふだんの生活においては分かっていると信じて疑わない様々な道徳的価値について、学校や家庭、地域社会における様々な体験、道徳科における教材との出会いやそれに基づく他者との対話などを手掛かりとして自己との関わりを問い直すことによって、本当の理解が始まります。指導の際には、特定の道徳的価値を絶対的なものとして指導したり、本来実感を伴って理解すべき道徳的価値のよさや大切さを観念的に理解させたりする学習に終始することがないように配慮することが大切です。

自己を見つめる

道徳科の学習では、道徳的価値を**自分のこととして考えたり感じたり**することが大切です。児童生徒が、これまでの自分の経験やそのときの考え方、感じ方と照らし合わせながら、更に考えを深めていきます。このような学習を通して、道徳性を養うことの意義について、児童生徒が、**主体的に考え、理解できるように**することが大切です。

多面的・多角的に考える

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うためには、児童生徒が多様な考え方や感じ方に接することが大切です。児童生徒が人としての生き方や社会の在り方について、多様な価値観の存在を前提にして、**教材や他者、自分自身との対話的な学習**を通して、物事を多面的・多角的に考えることが求められます。

（小学校）自己の生き方についての考えを深める

道徳的価値の理解を基に自己を見つめるなどの**道徳的価値の自覚を深める**過程で、同時に自己の生き方についての考えを深めています。その際、例えば、児童が道徳的価値に関わる事象を自分自身の問題として受け止められるようにすることや、他者の多様な考え方や感じ方に触れることで身近な集団の中で自分の特徴などを知り、伸ばしたい**自己を深く見つめられるように**することが大切です。あわせて、これからの生き方の課題を考え、それを自己の生き方として実現していこうとする**思いや願いを深める**ことができるようにすることも求められます。

（中学校）人間としての生き方についての自覚を深める

人間としての生き方についての自覚は、人間とは何かということについての探求とともに深められるものです。人間についての深い理解なしに、生き方についての深い自覚が生まれるはずはありません。言い換えれば、人間についての深い理解と、これを鏡として行為の主体としての**自己を深く見つめることとの接点に、生き方についての深い自覚が生まれて**いきます。そのことが、主体的な判断に基づく適切な行為の選択や、よりよく生きていこうとする道徳的実践へつながっていきます。このような視点に立って、生徒が**人間としての生き方について考えを深められるように**様々な指導方法の工夫が求められます。

2 教材の活用の仕方



(1) どのような教材を用いたらよいだろう？

①主たる教材としては教科書を使用しなければなりません。
しかし、道徳教育の特性を考えると、地域に根ざした郷土資料など、
多様な教材を併せて活用することが重要です。



学習指導要領では、道徳科で用いられる教材として備えるべき要件を3点挙げています。

- ア 児童生徒の発達の段階に即し、ねらいを達成するのにふさわしいもの
- イ 人間尊重の精神にかなうものであって、悩みや葛藤等の心の揺れ、人間関係の理解等の課題も含め、児童生徒が深く考えることができ、人間としてよりよく生きる喜びや勇気を与えられるもの
- ウ 多様な見方や考え方のできる事柄を取り扱う場合には、特定の見方や考え方に偏った取扱いがなされていないもの

これらの他に、教師自身が感動し魅力を感じているものや児童生徒の生活背景などの実態を配慮したものといった要件も大切です。

道徳科に用いる教材は児童生徒が道徳的価値の自覚を深めていくための手掛かりとして極めて大きな意味をもっています。また、児童生徒と教師が人間としての在り方や生き方などについて多様に感じ、考えを深め、互いに学び合う共通の素材として重要な役割を持っています。



②道徳科の特質を生かした展開が可能となるように活用することが大切です。

教材には、読み物教材、映像ソフト、写真、漫画、紙芝居、講話など様々なものがありますが、道徳科の特質を生かした展開になるように活用することが大切です。教材の選択に際しては、児童生徒の興味を引くことのみ留意するのではなく、道徳科の目標や特質を踏まえて「この教材で何を考えさせるのか」という授業のねらいの観点から選択する必要があります。教材を効果的に生かすには、登場人物の立場に立って自分との関わりで道徳的価値について理解したり、そのことを基にして自己を見つめたりすることが大切です。また、教材に対する感動を大事にする展開、道徳的価値を実現する上での迷いや葛藤を大切に展開、知見や気づきを得ることを重視した展開、批判的な見方を含めた展開にするなどの学習の指導過程や指導方法の工夫も大切です。

いずれにせよ、教材から読み取れる価値観を一方的に教え込んだり、登場人物の心情理解のみに偏ったりした授業展開にならないようにするとともに、児童生徒が道徳的価値を自分との関わりで考えることができるように留意することが大切です。



(2) なぜ「読み物教材」がよく活用されるのだろうか？



「自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己（人間として）の生き方についての考えを深める学習」を構想することが比較的容易であると考えられます。（ ）は中学校



その他に……

- 想像力を働かせることができる。
- 考える力を養うことができる。
- 児童生徒に考えさせたい箇所でも何度も振り返らせることができる。
- 人間らしい生活が描かれており、よりよい生き方についてじっくりと考えることができる。
- 授業後に何度も読み返すことができる。
- 家庭に持ち帰り、話題にすることができる。

などが挙げられます。

道德科の授業で活用するために作成された教材には様々な形態のものがあります。教材の分類には様々な考えがありますが、道德科の特質を踏まえ、以下の3分類を押さえておくことで授業の準備がスムーズになります。

- ① 主人公の生き方や、道德的価値に関する意識が変化するもの
- ② 話の舞台になっている「場」が道德的なものに変化するもの
- ③ その他

児童生徒が生き方について深く考え、「道德的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己（人間として）の生き方についての考えを深める」学習を展開するためには、①や②の教材が活用しやすいでしょう。

道德科の学習では、児童生徒が、教材の世界に浸り、主人公に自分を重ねて生き方について考えます。客観的に外から主人公の生き方を考えるのではなく、いわば主人公の着ぐるみを着たように主人公になりきって、自分の事として考えさせることが大切です。



(3)「読み物教材」を吟味するときのポイントは何だろう？

教材に描かれている道徳的価値とその論点の展開を明確に捉えることがポイントです。その際、教材の構造を図にするとわかりやすいです。



まずは、次のことをポイントに、大きく構造を捉えよう！

①生き方が道徳的に変化したのは、だれですか？何ですか？

変化した人物が主人公です。例外もありますが、基本的に主人公の視点で話を読んでいきます。

②主人公の生き方はどこで変化しますか？

この場面が中心場面となり、中心的な発問をする箇所になることが多いです。

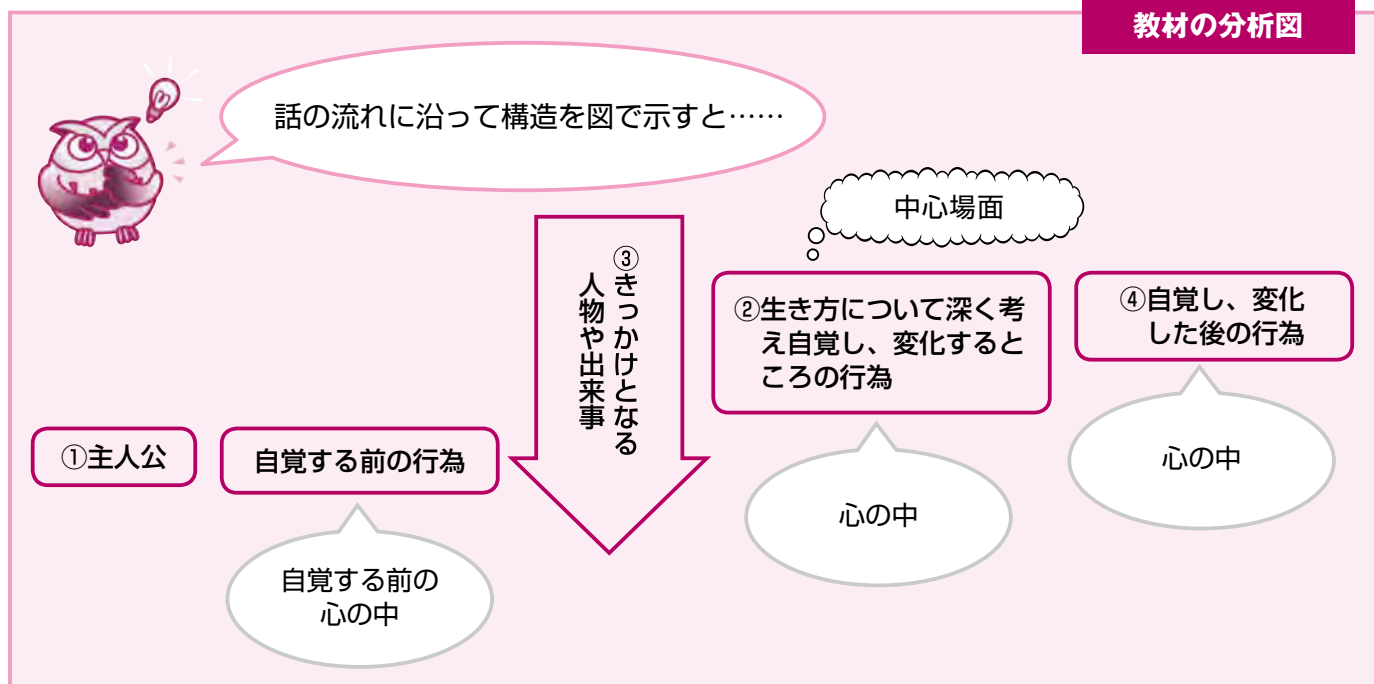
発問と児童生徒の予想される答えを考え、多様な意見が出にくい場合、④の自覚したあとの行為を取り上げて発問することもできます。

③主人公が変化したきっかけは何ですか？

きっかけとなった事柄や人物の行為が内容項目を考える際の大きなヒントになることが多いです。

④主人公は、自覚した結果どのような行為をしましたか？

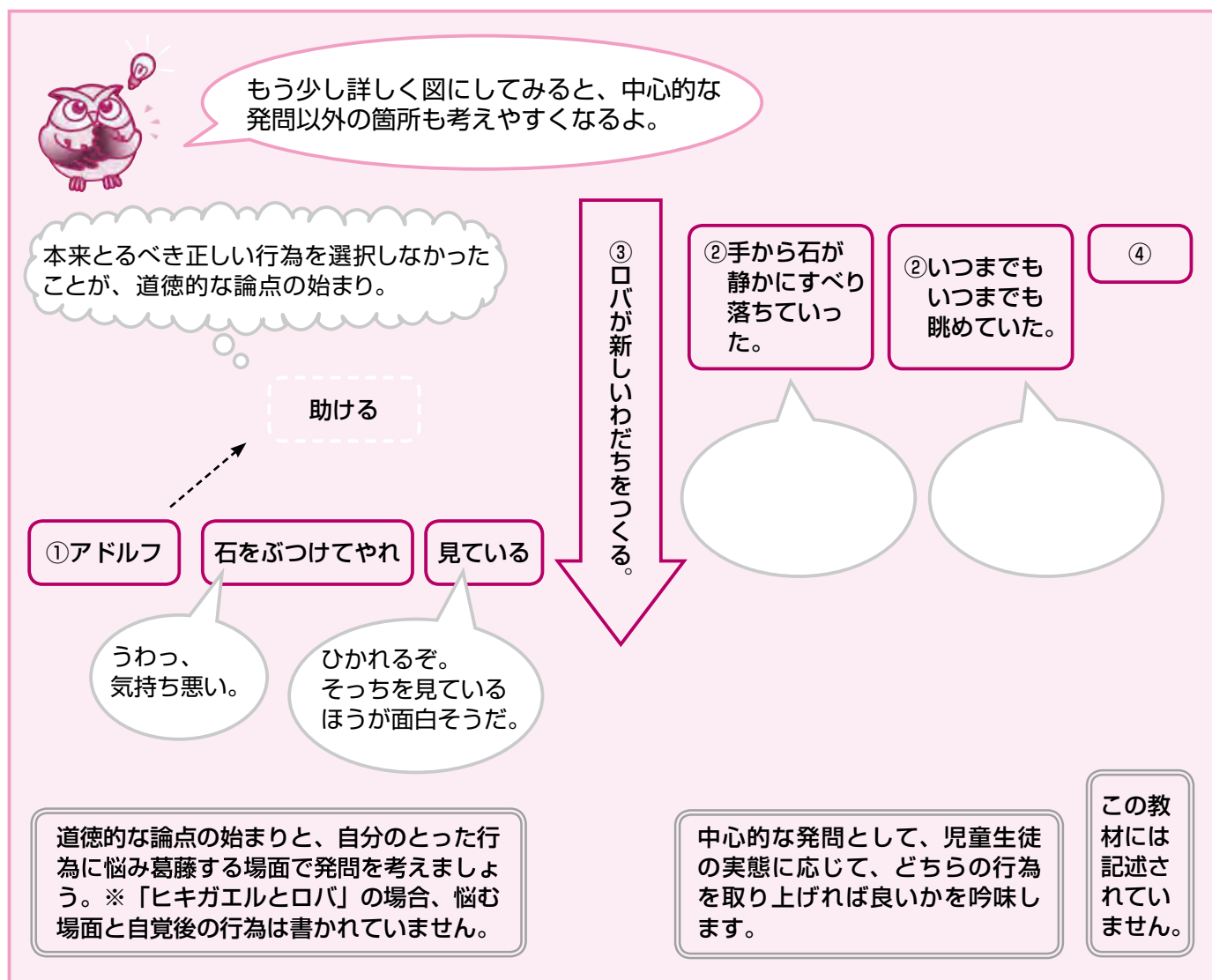
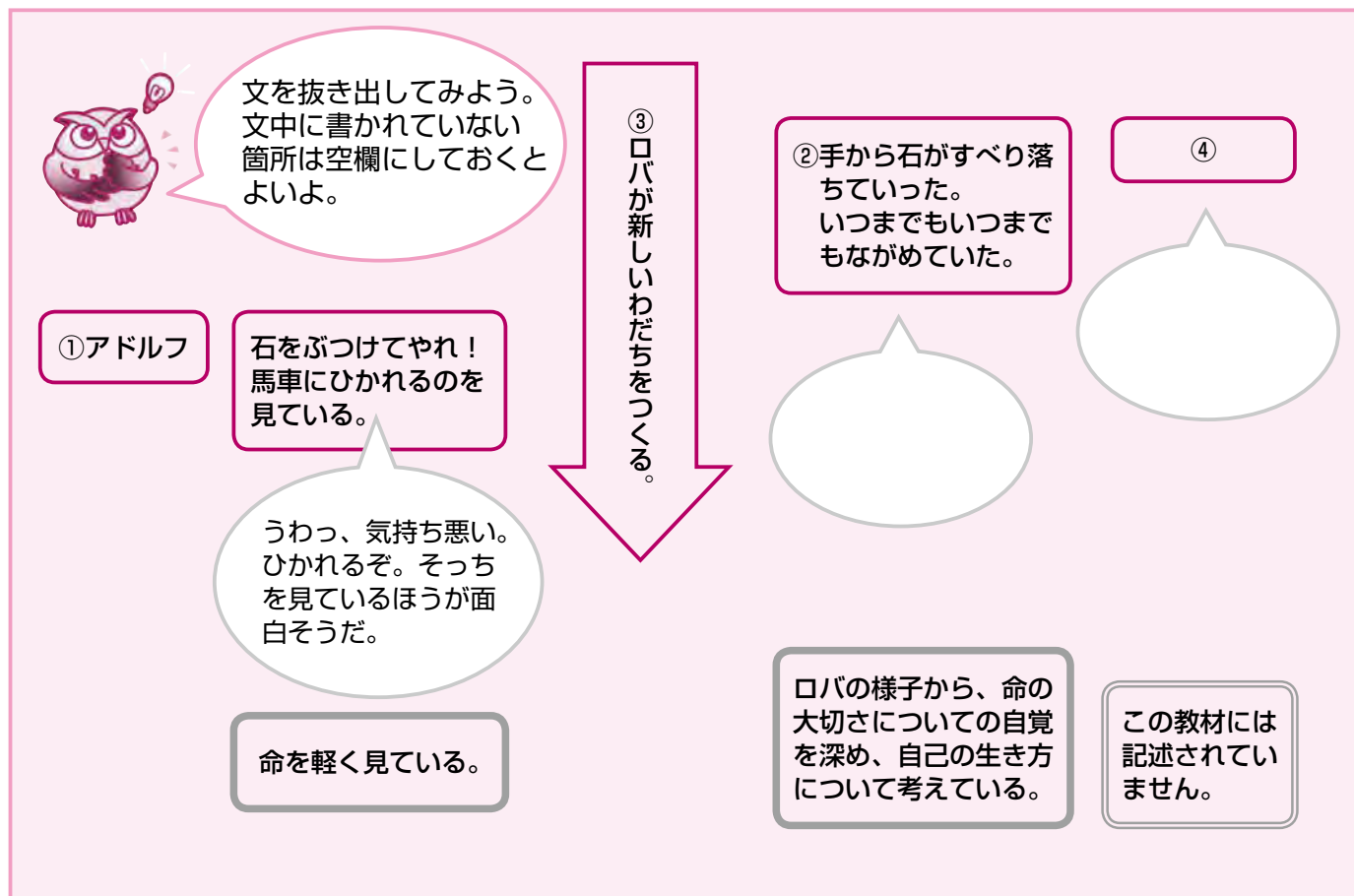
教材の分析図



例えば、「ヒキガエルとロバ」(「私たちの道徳」文部科学省)の教材で考えると…(指導案はP.30)

◆◆◆教材の概要◆◆◆

主人公のアドルフが、ヒキガエルを見つけ「気持ち悪い」と言って石を投げつける。そのとき、荷車を引いたロバがやってくる。ロバはやせていて、耳も聞こえず目も見えないほど年をとっており、重い荷物を乗せている。ヒキガエルが荷車にひかれそうになるのを面白がって見ようとしていたアドルフだったが、ロバはヒキガエルを見つけると、渾身の力を振り絞って新しい轆をつくり、ヒキガエルの横を通り過ぎた。それを見ていたアドルフの手から石が静かにすべり落ちた。アドルフは、くぼみの中で小さく息をしているヒキガエルと、遠く去っていくロバの姿を、いつまでもいつまでも眺めていた。





(4) 指導案を作成する際のポイントは何かろう？

どの道徳的価値について考えるかを明確にし、授業の山場となる中心的な発問をまず考えます。次に中心的な発問でねらいに迫るために必要な基本発問等を考えます。



①年間指導計画に示されている主題名とねらいを確認し、学級の実態と照らして指導内容や目標を具体化する。

【指導案作成までの流れ】

①ねらいを検討する。

②教材を読む。

③中心となる場面を考える。

④中心的な発問を考える。

※主題・内容項目・ねらいと一致しているかを確認する。

⑤中心的な発問を生かすための前後の発問を考える。

②教材に描かれている道徳的価値とその論点がどのように展開しているかを捉える。例えば副詞に気を付けて読むと、心の動きが見えやすい。

④児童生徒から多様な答えが出てくるような問い方を工夫する。

教師の期待する答えではなく、プラス、マイナス両方の「予想される答え」を考える。

「予想される答え」は授業者がねらいとする道徳的価値と一致しているだろうか。異なる場合は、問い方や問う箇所を再検討する必要がある。あるいは、内容項目に対する理解不足、本教材の道徳的な解釈が不十分ということが考えられる。

③児童生徒に一番深く考えさせたい箇所で、授業の山場になるところ。主人公の行為や意識が変化したところの場合が多い。

⑤中心発問に時間をかけることが大切なので、基本発問は多くなりすぎないように注意する。



板書計画も用意しておこう。

教材には、いくつもの道徳的価値が含まれていますが、道徳科の学習ではその中で最もふさわしいもの一つに絞ることが大切です。道徳科の学習は、その道徳的価値について児童生徒が自覚を深め、生き方について語り合い、多様な考え方に気付き、よりよい生き方への動機付けになるような学習にならなければなりません。児童生徒と教師が共に考え、共に語り合うことが重要なポイントです。

教材の吟味は、学年の教師など複数で行うと、多様な考え方や意見を交流することができます。また、授業後には、指導案や年間指導計画に留意点等を加筆しておくことで次年度の計画に反映しやすくなります。



(5) 発問のポイントはどんなことだろう？

まず中心的な発問から考えます。主人公の行為や生き方、話の舞台となる「場」が道德的に変化する箇所が中心場面です。中心場面またはそのあとの箇所で発問を考えることがポイントです。



多様な発言を引き出す発問にするために……

「こころ」が直接書かれていない箇所でも問い、多様な意見を引き出します。

「どうすればよかった？」と行動のみを問うのではなく、「こころ」を考える発問をします。

「気持ち」ばかりでなく、判断理由や意欲を問うことも大切です。

教材を読む際と同様に「副詞」を丁寧に扱います。

児童生徒の予想を超える発問で、深く考え新しい学びが得られる学習を目指します。

基本発問が多くなりすぎないように気をつけます。

違う角度・立場から考える問いで、考えが深まることもあります。

授業中には……

単語だけの発言に対しては、くわしく聞き出します。

中心的な発問にたっぴりと時間をかけ、じっくりと児童生徒と共に考え合い、語り合います。

その他に……

主人公が道德的に変化せず、主人公の行為を取り上げて、その行為を支える心を問うことができない教材の場合は、感動の正体を探り、それに照らした生き方を考える発問をすることも一つの方法です。

「道德的価値の自覚」については、発達段階に応じて多様に考えられますが、次の三つの事柄を押さえておく必要があります。

一つは、道德的価値についての理解です。道德的価値が人間らしさを表すものであるため、同時に人間理解や他者理解を深めていくようにすることが大切です。

二つは、自分との関わりで道德的価値が捉えられることです。そのことにあわせて、自己理解を深めていくようにすることが大切です。

三つは、道德的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われるようにすることです。その中で、自己や社会に希望がもてるようにすることが大切です。

人格の基盤を形成する小学校の段階においては、児童が道德的価値の自覚を深め、自己の中に形成された道德的価値を基盤として、自己の生き方についての考えを深めていくようにすることが大切です。また、中学校の段階においては、道德的価値に裏打ちされた人間としての生き方についての自覚を深めることが肝要です。



(6) 心に響く授業にしたい！
そのためのポイントは？

信頼関係や温かい人間関係を基盤に、教師と児童生徒が共に考え、よりよい生き方を求める姿勢が大切です。

以下に、5つのポイントにまとめて示しています。



①共に考え、ともに語り合う姿勢をとる

教師が一方的に考えを押しつけたり、単なる生活経験の話をしたりするのではなく、道徳的価値を窓口に生き方について考え合う時間となるように工夫することが大切です。児童生徒と教師は、立場が違って、人間として対等であり尊重する姿勢が大切です。

②「なるほど!」と受け入れる

「あなたはそう考えたんだね。」と児童生徒の発言は一旦受け止めます。児童生徒が本当に言いたいことは何かを考え、言葉の根っこにある心の声に耳を傾ける姿勢が大切です。

③「もう少し詳しく聞かせて!」

例えば、「うれしい」という言葉の中の、何がうれしいかは、児童生徒それぞれで異なるはずです。



④授業経験を積む

道徳科は年間35時間（小学校1年は34時間）しかありません。大切にしたいものです。

⑤輪を広げよう

授業で考えさせた内容や書かせた感想を、学級通信や道徳通信等で、学級内、保護者や地域社会、学年や学校の教職員で共有することで、相互理解に役立つはず。また、道徳科に関する話題が職員室で広がることが望ましいです。授業計画を立てるときにも気軽に話し合える雰囲気大切にしたいものです。



(7)「京の子ども
明日へのとびら」
とは、どのような
資料だろう？

京都府教育委員会が作成し
た「心の教育」学習資料集
です。道徳教育の様々な場
面で活用できます。



「京の子ども 明日へのとびら」

京都府教育委員会では、児童生徒の豊かな心をはぐくむために、人間としての生き方を見つめ、ともに学び、考え合う京都府独自の「心の教育」学習資料集「京の子ども 明日へのとびら」を作成しました。平成19年4月から、全小中学生に配布し、様々な時間での活用が進んでいます。

掲載されている学習資料

小学校・低学年編

- | | |
|---------------------------|--------|
| 1 あなたへの おくりもの | 永田 萌 |
| 2 わたし、あなた、家ぞく | 瀬尾 まいこ |
| 3 ごっこあそびを しよう | 中西 進 |
| 4 ふたり | 今江 祥智 |
| 5 むかしの 子ども | 澤田 ふじ子 |
| 6 人を 思いやる 心も、
人との つながり | 日野原 重明 |
| 7 ジャッカルと チンパンジー | 梅原 猛 |
| 8 友だち 何人 できるかな | 内田 奈織 |
| 9 思いやりの 心を もって | 江口 克彦 |
| 10 まわりの けしき・心の 目 | 永田 和宏 |
| 11 絵が すき・人が すき | 畠中 光享 |

小学校・中学年編

- | | |
|--------------------------------|-------|
| 1 そうじする | 梶田 真章 |
| 2 すてきな人 | 山本 兼一 |
| 3 分かち合う心 | 河合 雅雄 |
| 4 ゆめをかなえるために | 武田 美保 |
| 5 生命はえいえんか？ | 岡田 節人 |
| 6 いっしょにがんばってみようか | 西本 吉生 |
| 7 自分って、何だろう | 鷲田 清一 |
| 8 勇気。それはゆめのとびらを
開けるかぎ | 佐渡 裕 |
| 9 小学生のころ | 本庶 佑 |
| 10 大志をいだけ | 松尾 心空 |
| 11 「楽書」のすすめ
一書くということ一 | 石川 九楊 |
| 12 ねこはどこまでわがままか
一人はどこまで動物か一 | 日高 敏隆 |
| 13 植物とわたし
一北海道ですごした少年時代一 | 河野 昭一 |
| 14 京都というところ | 村井 康彦 |



小学校・高学年編

- | | |
|------------------|---------|
| 1 桜の色の話 | 志村 ふくみ |
| 2 いのちの尊さを自覚しましょう | 上田 正昭 |
| 3 「いのち」を深く愛する | 中西 進 |
| 4 サンゴの心配 | 日高 敏隆 |
| 5 Tさんとアフリカの子どもたち | 徳川 輝尚 |
| 6 心の痛みを分かち合う | 安藤 仁介 |
| 7 「テクノボー」になりたい | 山折 哲雄 |
| 8 祖父の話 | 小寺 正一 |
| 9 自分をつくる楽しさ | 衣笠 祥雄 |
| 10 見ること、見せること | 茂山千三郎 |
| 11 言葉の力 | 坪内 捻典 |
| 一俳句との出会いなどー | |
| 12 感動する心、熱中する心 | 鈴木 俊哉 |
| 13 木版画であらわす日本の美 | 木田 安彦 |
| 14 美しきふるさと京都 | 崔 善今 |
| 15 わたしが出会った日本 | ドナルド=キン |
| 16 日本で育ちゆくきみたちへ | 千 玄室 |

京都府教育委員会では、この指導資料を活用して指導を進める際の参考例として、実践事例集を作成し、ホームページで公開しています。
<http://www.kyoto-be.ne.jp/knavi/asuhenotobira/>



「京の子ども 明日へのとびら」は、「これはまさに、英知を結集した人生読本」と新聞報道されるなど、京都府はもとより他府県の多くの方々から好評を博し、平成19年7月から小・中学校版を1冊にまとめて市販されています。

中学校編

- | | |
|-----------------------------|--------|
| 1 長寿国・日本とは？ | 山折 哲雄 |
| 2 君の胸にも勲章を | 伊藤 謙介 |
| 3 “生きている”をよく見て考えよう | 中村 桂子 |
| 4 人道の輝く世紀を目指して | 上田 正昭 |
| 5 医者という仕事
一人間の病と健康を見つめてー | 澤田 淳 |
| 6 そして今日もまた | 向山 ひろ子 |
| 7 友達をつくる
一傷つくことを恐れすぎないー | 梶田 真章 |
| 8 善き思いを抱き、善き行いをする | 稲盛 和夫 |
| 9 音楽と人の心 | 廣瀬 量平 |
| 10 シンパシー（共感）を
たいせつに | 村田 純一 |
| 11 ライフワーク 一映画の魅力ー | 龍村 仁 |
| 12 わたしと自然、自然な自由 | 西島 安則 |
| 13 母なる自然の恵み | 河合 雅雄 |
| 14 ぼくのだいすきな日本 | 久木 久代 |
| 15 国の言葉と文化
一日本語と韓国語ー | 曹 承鉉 |
| 16 一期一会の教え
一平和への祈りを深めるー | 千 玄室 |
| 17 道徳の源は母心 | 梅原 猛 |



3 道德科の評価



(1) 児童生徒の何を評価するのだろうか？

道德科の目標は、よりよく生きるための基盤となる道德性を養うことにあります。しかし、道德性が養われたか否かは、容易に判断できるものではありません。



では、何を評価するのですか？

道德性を養うことを学習活動として行う道德科の指導では、児童生徒の学習状況や道德性に係る成長の様子を継続的に把握し、評価することが求められます。



そのときに、重視すべき点は何でしょうか？

「一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか。」そして「道德的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。」これらの点を重視し、道德科の学習活動に着目して評価をします。



そのために、具体的にどのような工夫が必要ですか？

例えば、

- ・ 児童生徒の学習の過程や成果などの記録を計画的にファイルに蓄積したもの
- ・ 児童生徒が道德性を養っていく過程での児童生徒自身のエピソードを蓄積したもの
- ・ 作文やレポート、スピーチやプレゼンテーションなど具体的な学習の過程
- ・ 児童生徒が行う自己評価や相互評価などを活用することが考えられます。



(2) どのように評価するのだろうか？

児童生徒の人格そのものに働きかけ、道德性を養うことを目標とする道德科では、観点別評価（観点ごとにABCの段階を付ける評価）や数値による評価、他の児童生徒との比較による評価は、妥当ではないと考えられます。





では、どのように評価するのですか？

観点別評価や数値による評価ではなく、記述式で行います。また、他の児童生徒との比較ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として行います。



記述する上で、留意すべき点は何ですか？

個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価とすることです。そのためには、1単位時間の授業だけでなく、年間や学期といった一定の時間的なまとまりの中で、児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握する必要があります。



通知表では、保護者にわかりやすく示すことも大切だと思うので、ある授業における児童生徒の学習の様子や発言などを基に記述してもよいのでしょうか。

学習指導要領解説「特別の教科 道徳編」の評価に関する記載は、指導要録への記述を前提としたものであり、学校が独自に作成する通知表について示したものではありません。ただし、一般的に指導要録と通知表は連動したものであることを考慮すれば、基本的な考え方は同じだと言えます。その点を踏まえた上で、通知表については、ある授業において特に顕著であると認められる児童生徒の状況や様子を取り上げることもあり得るでしょう。その際には、具体的に内容項目を示すのではなく（個別の内容項目の評価はしないので）、教材名を挙げて記述するのが望ましいと思われます。



その他にも・・・



- ・発達障害等のある児童生徒が抱える学習上の困難さの状況を踏まえた指導及び評価上の配慮を行うこと。
 - ・海外から帰国した児童生徒や日本語習得に困難のある児童生徒等についても、一人一人の状況に応じた指導と評価を行うこと。
 - ・また、道徳科の評価は調査書に記載せず、入学者選抜の合否判定に活用することのないようにすること。
- などの点に留意してください。

4 読み物教材の活用実践例



(1) 実際には、どのような授業をすればよいのだろうか？

この後に、指導案を掲載しています。参考にしてください。



本書の指導案の構成と内容

左ページ：
教材分析と授業のポイント

右ページ：
本時のねらいと展開

学校種 教材名『○○○○○』(出典) 内容項目

◆◆◆教材の概要◆◆◆

資料分析の解説にとどまらず、押さえるべき背景や主人公以外の思いなども含め、主題を考えさせるために必要な話の筋を記述しています。

◆◆◆教材の活用◆◆◆

この資料を活用して、指導生徒と何について考えたいか、どんな子どもを育てたいかといった願いを記述しています。

◆◆◆中心的な発問◆◆◆

授業の山場になる、ねらいに迫るための中心的な発問を記述しています。

◆◆◆板書計画◆◆◆

板書計画の例を示しています。
基本的に、資料が縦書きの場合は板書も縦書きにし、横書きの場合は横書きにしています。

◆◆◆道徳的価値「○○○○○」について◆◆◆

学習指導要領解説に記述されている内容項目の記述を掲載しています。

教材の分析図は資料欄に載せています。併せてご覧ください。

様式は、基本的には「質の高い学力を育成する学習指導案ハンドブック」(京都府総合教育センター 平成24年3月)で示したものに従っています。ただし、評価については、評価の視点(例)を欄外に記述する形式にしています。

掲載指導案の内容項目と教材名

【小学校】

- ◆低学年 内容項目「努力と強い意志」
教材名「シロクマのクウ」
- ◆低学年 内容項目「友情」
教材名「およげない りすさん」
- ◆中学年 内容項目「生命の尊さ」
教材名「ヒキガエルとロバ」
- ◆中学年 内容項目「公德心」
教材名「雨のバス停留所で」
- ◆中学年 内容項目「正直、誠実」
教材名「六セント半のおつり」
- ◆高学年 内容項目「感謝」
教材名「黄熱病とのたたかい」
- ◆高学年 内容項目「思いやり」
教材名「最後のおくり物」
- ◆高学年 内容項目「生命の尊さ」
教材名「その思いを受け継いで」

【中学校】

- ◆内容項目「自主、自律」
教材名「町内会デビュー」
- ◆内容項目「感謝」
教材名「背番号10」
- ◆内容項目「自他の生命の尊重」
教材名「キミばあちゃんの椿」
- ◆内容項目「規範意識」
教材名「仏の銀蔵」
- ◆内容項目「きまりの意義」
教材名「二通の手紙」
- ◆内容項目「国際理解」
教材名「海と空－樫野の人々」

◆◆◆教材の概要◆◆◆

シロクマのクウはもうすぐ2才。クウは毎日、お母さんといっしょに魚を獲る練習をしていた。うまくいかないと、「ねえ、おかあさんがとってよ。」と甘えてしまう。でも、シロクマの子どもは2才になると母親から離れて一人で暮らさなければならない。

この日もクウは、何度も魚を獲ろうとするが一匹も捕まえられず、腕も痛くなりとうとう氷の上に座り込んでしまう。だが、お母さんが自分を見ていることに気付いたクウは、しばらく考え、「よし!」と立ち上がると、ねらいを定めて飛び込み、魚を獲ることができる。その様子を見てお母さんグマは、にっこりと笑う。

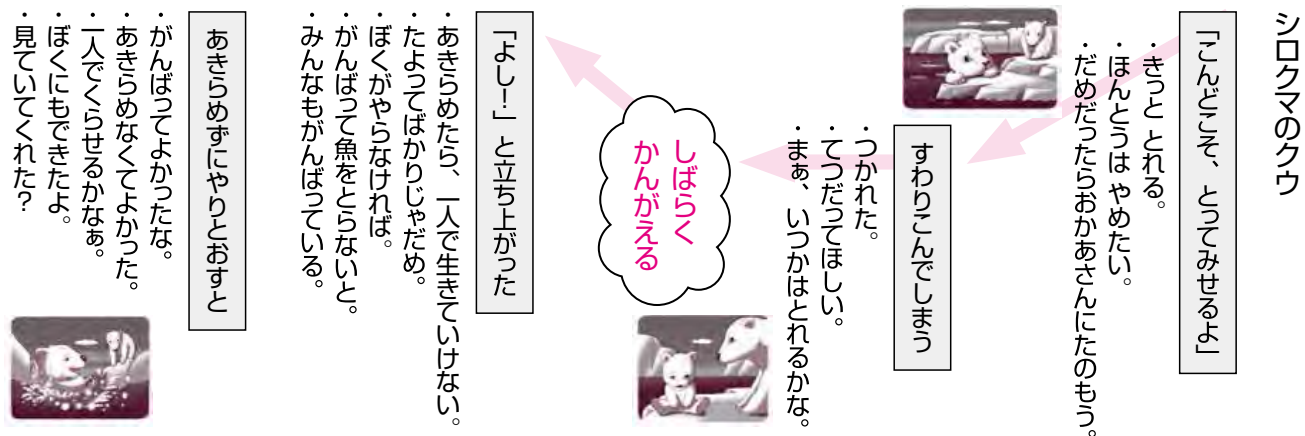
◆◆◆教材の活用◆◆◆

もうすぐ2才になるクウにとって、魚を獲る練習は自分の力だけで生きていくための試練である。「ねえ、おかあさんがとってよ。」と甘えるクウに「どこの子も2才になるとおかあさんと離れて一人で暮らすのよ。自分で食べ物をとれないと困るでしょう。」と優しく諭す母親。何度も何度も挑戦するがうまくいかずとうとう座り込んでしまうクウに児童は共感するだろう。しかし、ここでクウがどんなことを考えて、「よし!」と思って、魚を捕ることができたのかを考えさせたい。この教材を活用することで、自分のことでやらなければならないことは、すぐに助けを乞うのではなく、自分がしなければいけないということを考えさせたい。

◆◆◆中心発問◆◆◆

クウは、どんなことを考えて、「よし!」と立ち上がったのでしょうか。

◆◆◆板書計画◆◆◆



◆◆◆道徳的価値 “くじけず努力すること” について◆◆◆

児童が自立し、よりよく生きていくためには、自分がやらなければならないことはしっかりとやり抜くことが大切である。そこには、何事にも粘り強く取り組み、努力し続ける忍耐力も求められる。ただし、見通しもなく取り組むのではなく、よりよい自己を実現しようとする向上心と結びついてこそ、前向きな自己の生き方が自覚されてくる。そのためにも、児童がより高い目標を立てたり、自分としての夢や希望を掲げたりして、その達成や実現への志をもち、勇気をもって取り組むことができるようにすることが大切である。

◆◆◆学習指導案（本時のねらいと展開）◆◆◆

本時のねらい

くじけそうになっても頑張ろうとしたクウの気持ちを考えることを通して、自分がやらなければならない勉強や仕事は、しっかりと行おうとする道徳的判断力を育む。

本時の展開

	学習活動	発問と予想される児童の反応	指導上の留意点
導入	・教材について知る。	シロクマは何歳になるまでお母さんと一緒にいると思いますか？ ・8才。ぼくたちぐらいかな？	・教材理解への方向付けをする。 ・シロクマ親子の写真を見せる。 ・シロクマは2才で独立して一人で生きていかなければならない現実を伝える。
展開	・教材を読んで（CDを聞いて）考える。 ・はじめの頃、上手いかないときのクウの気持ちに共感する。 ・「自分で食べ物をとれないと困るでしょう。」と母親に諭されるクウの気持ちを考える。 ・くじけそうになったとき、おかあさんがこちらを見ていることに気付いたクウの心境の変化について考える。 ・達成感や頑張ったときの気持ちを考える。	・上手になりたいなあ。 ・とれるようになるかな。 ・おかあさんがいるから平気だ。 ・疲れたなあ。 ・みんなは一人でとっているのかな。 座りこんでしまったときのクウはどんなことを考えていたでしょう。 ・疲れた。 ・頑張ろう。 ・かっこ悪いなあ ・ちょっとは手伝ってほしい。 ・本当にできるようになるのかな。 ・まあ、いつかはとれるだろう。 クウはどんなことを考えて「よし！」と立ち上がったのでしょうか。 ・このままじゃ、だめだ。 ・おかあさんが応援してくれている。 ・あきらめたら、ぼくは死んじゃうかも。 ・頑張らなければいけない。 ・ここであきらめちゃ、一人で暮らせない。 「やった、やったよ。」と言ったときのクウはどんな気持ちだったでしょう。 ・頑張ってよかった。 ・あきらめなくてよかった。 ・2才になったら、一人で暮らせるかなあ。 ・ぼくにもとれたよ。 ・見ていてくれたかな。	・話の筋が理解できるように、ペープサートで動きを取り入れ、児童の表情や様子を観察する。 ・クウの張り切っている気持ちに共感させながらも、決意が軽いことを押さえる。 ・自分が一人で暮らせるように努力しなければいけない気持ちよりも、おかあさんに言われるから仕方なしに頑張っている気持ちがあることを押さえる。 （手掛かりになる言葉） 「ねえ、おかあさんがとってよ。」 腕がいたくなってきて「あーあ……。」 ・おかあさんの言葉を思い出させ、自分が頑張らなければいけないことなのだということを押さえる。 ・自分がやらなければいけないことに気付き、最後までやり切った喜びを押さえる。
終末	・本時の学習をふり振り返り出会った価値を深める。	クウのように考えて頑張ったことはありますか？	・価値への気付きを明確にし、本時の振り返りをさせる。

評価の視点（例）

- 自分がやらなければならない勉強や仕事をやり切ることの大切さについて考える様子が見られる。

◆◆◆教材の概要◆◆◆

かめ、あひる、白鳥が池の中の島へ行こうと相談しているところに、りすが来て、一緒に連れて行ってほしいとお願いする。しかし、泳げないから駄目だと、みんなは断ってしまう。島に行き、りすがいないまま遊んでも楽しくなかったみんなは、次の日、りすに昨日のことを謝り、りすをかめの背中に乗せて、みんなで島に向かう。

友達と仲良く遊ぶことのよさや、友達のことを考えて助け合うことの大切さについて考えることのできる教材である。仲間外れは、低学年における友達のトラブルとして見られる状況であり、こうした場面について考えることを通して、友達と仲良く助け合うことについて、考えを深めることができる。いじめに関する問題を自分自身のこととして、多面的・多角的に考えさせることにも活用できる。

◆◆◆教材の活用◆◆◆

遊びの誘いを断られ一人ぼっちになったりすの気持ちに寄り添って考えることで、自分のことだけではなく、友達の気持ちを考え、仲良くすることが望ましい友達関係を築く上で大切であるということに気付かせたい。

また、かめ、あひる、白鳥の気持ちを考えることで、異なる立場からも友達としての在り方に共感でき、自分もそう在りたいという意欲を高めたい。

自己中心性がまだ多く残る低学年の時期は、自分の思いが先に立ち、自分にとって都合のよいことを優先してしまうことがある。そのため、友達が嫌がることを何気なくしてしまったり、仲間外れにしまったりすることもある。本教材では、仲間はずれにする側とされる側の双方の気持ちを考えることができ、役割演技を取り入れることでより実感を伴いながら主体的に考えさせたい。

◆◆◆中心発問◆◆◆

かめさんの背中に乗って、みんなと島へ向かうりすさんはどんなことを言っているでしょう。

◆◆◆板書計画◆◆◆

写真

「もだちと 一緒に
だから、楽し
いっばい。
ともだちと
がんばるから、
えがお たくさん。」

「たのしいな。
りすさんが
よろこんで
くれて、
うれしいな。
たのしみだな。」



「ありがとう。
やさしいな。
うれしいな。
楽しいな。
何してあそぼう
かな。」

「およげないから、だめ。」
・いっしょにいきたいな。
・およげないから、かなしいな。
・いじわるだな。」

・あそびたいな。
・いっしょにいきたいな。

あそぶ そうだん

およげないりすさん

◆◆◆道徳的価値「友情」について◆◆◆

友達は家族以外で特に関わりを深くもつ存在であり、友達関係は共に学んだり遊んだりすることを通して、互いに影響し合って構築される。また、世代が同じ者同士として、似たような体験や共通の興味や関心を有することから、互いの考え方などを交え、豊かに生きるための大切な存在として、互いの成長とともにその影響力を拡大させていく。

児童にとって、友達関係は最も重要な人間関係の一つであり、友達関係の状況によって学校生活が充実するか否かが方向付けられることも少なくない。よりよい友達関係を築くには、互いに認め合い、学習活動や生活の様々な場面を通して理解し合い、協力し、助け合い、信頼感や友情をはぐくんでいくことが大切である。

◆◆◆学習指導案（本時のねらいと展開）◆◆◆

本時のねらい

みんなと仲良く島へ向かうりすの気持ちを考えることを通して、友達と仲良くし、互いに助け合っていこうとする道徳的实践意欲を育てる。

本時の展開

	学習活動	発問と予想される児童の反応	指導上の留意点
導入	・教材について関心をもつ。	・今日はこんな動物が出てくるお話です。	・イラストやペープサートで本時の教材への興味付けをする。
展開	・教材を読む。 ・いっしょにあそびたいりすの気持ちと仲間はずれにされた気持ちを考える。 ・りすとかめの気持ちに共感する。	相談を聞いているとき、りすさんはどんな気持ちだったでしょう。 いっしょに行きたいな。 いっしょにあそびたいな。 「りすさんはおよげないからだめ。」と言われた時、りすさんはどんな気持ちだったでしょう。 ひとりぼっちでさびしいなあ。 いっしょに行きたいなあ。 泳げないから悲しい。 かめさんの背中に乗って、みんなと島へ向かうりすさんはどんなことを言っているでしょう。 ありがとう。みんな、うれしいよ。 みんないっしょだと楽しいな。 島では何をして遊ぼうかな。 りすさんを背負っているかめさんは、どんな気持ちでしょう。 たのしいな。 りすさんが喜んでくれてうれしいな。 みんなで遊べるから楽しみだな。	・範読する。 ・仲良くあそびたいりすの気持ちを捉えさせる。 ・仲間はずれにされたりすの気持ちに共感させる。 ・役割演技を通して、誰とでも仲良く助け合うことのよさについて主体的に考えられるようにする。 ・りすさんを背負っているかめさんの気持ちを考えることで、助け合うよさを感じさせる。 補助発問： 「かめさんは、どう考えて『ぼくのせなかのりなさいよ』と声をかけたのだろう。」 ・友達っていいな、これからも仲よく一緒にがんばっていききたいなという気持ちをもたせるようにする。
終末	・本時の学習を振り返る。	友だちになかよくしてもらってうれしかったことには、どんなことがありますか。	・友達と仲よくしたり、一緒にがんばったりしている写真を見せ、自分のこととして考えられるようにする。 ・「わたしたちの道徳」P76を活用し、本時の学習を振り返らせる。

評価の視点（例）

- 友達と仲良くし、互いに助け合うことのよさについて考える様子が見られる。

◆◆◆教材の概要◆◆◆

主人公のアドルフが、飛び出してきたヒキガエルを見つけ、「気持ち悪い」といって石を投げる。ヒキガエルに石が当たったことに喜んだアドルフは、もっとたくさんの石を集めて当てようとする。そのとき、向こうから荷車をひいたロバがやってくることに気付く。そのロバはやせていて、耳も聞こえず目も見えないほど年をとっており、おまけに重い荷物を乗せている。アドルフは、ヒキガエルが荷車にひかれるのを面白がって見ようとしたが、ロバはヒキガエルを見つけると、渾身の力を振り絞って新しいわだちを作り、ヒキガエルの横を通り過ぎた。それを見ていたアドルフの手から石が静かにすべり落ちた。アドルフは何も言わず、くぼみの中で小さく息をしているヒキガエルと、遠く去っていくロバの姿を、いつまでもながめていた。

◆◆◆教材の活用◆◆◆

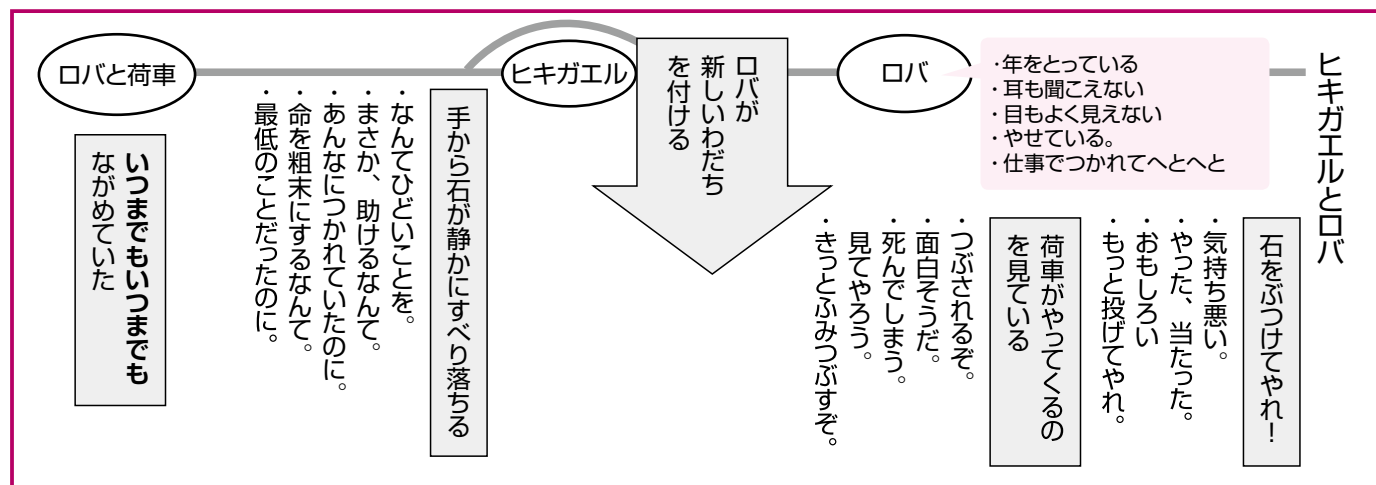
中学年の児童は、命を大切にしなければならぬということ、頭で分かっている、身近な動植物を、つい粗末に扱ってしまうことがある。児童は、ヒキガエルを傷付け、荷車にひかれることを面白がっているアドルフを共感的に見ることだろう。

一方で、この時期の児童は、現実性をもって死を理解できるともいわれる。この教材を活用することで、もてる限りの力を振り絞ってヒキガエルを助けようとしたロバの姿から、自らを振り返って考えさせることで、生命あるものの全てを大切にしようとする心情を養いたい。

◆◆◆中心発問◆◆◆

手から石が静かにすべり落ちていったとき、アドルフはどんなことを思っていたでしょう。

◆◆◆板書計画◆◆◆



◆◆◆道徳的価値「自他の生命の尊重」について◆◆◆

生命の大切さはどれだけ強調しても、し過ぎることではない。全ての道徳性は、生命が大切にされてはじめて成り立つものだからである。この内容項目では、主として人間の生命の尊さについて考えを深めることになるが、生きているものの全ての生命の尊さにも価値を置きながら考えなければならない。すなわち、社会的な関わりの中での生命や、自然の中での生命、さらには、生命の尊厳性など、多面的な視点から考えを深めていくことが大切である。

◆◆◆学習指導案（本時のねらいと展開）◆◆◆

本時のねらい

ヒキガエルを助けたロバの行動を見て自分を振り返るアドルフの姿を通して、生命あるもの全てを大切にしようとする道徳的心情を豊かにする。

本時の展開

	学習活動	発問と予想される児童の反応	指導上の留意点
導入	・教材に対して興味を持つ。	この生き物を知っていますか。 ・知っている。ヒキガエルだ。 ・気持ち悪い。	・教材に対する興味付けする。
展開	・教材を読む。 ・面白半分で、ヒキガエルをいじめているアドルフの気持ちを考える。 ・命を軽く見ているアドルフの気持ちを理解する。 ・ロバを見送っているアドルフの心の中について考える。	アドルフはどんな気持ちでヒキガエルに石を投げたのでしょうか。 ・気持ち悪い。 ・やった、当たった。面白い。 ・もっと投げてやれ。 荷車がやってきたとき、アドルフはどんなことを思っているのでしょうか。 ・ヒキガエルが荷車につぶされるぞ。 ・面白そうだ。 ・つぶされて死んでしまうところを見てやろう。 ・ロバのやつ疲れているから、きっとヒキガエルを踏みつぶすぞ。 手から石が静かにすべり落ちていったとき、アドルフはどんなことを思っていたのでしょうか。 ・まさか、あんなに疲れていたのに助けるなんて。 ・ぼくは、なんてひどいことをしていたのだろう。 ・命を粗末にするなんて、最低のことだった。	・教材を範読する。 ・挿絵やフラッシュカードを使い、動かしながら場面理解を支援する。 ・難語句の補足説明をする。（わだち） ・ここでは面白半分だったことを押さえる。 ・主人公への批判にならないように注意する。 ・ロバの状態を押さえる。 { 年をとっている。 耳も聞こえず、目もよく見えない。 やせている。 仕事で疲れてへとへと。 ↓ →そんなロバが力を振り絞り、わだちを作った。 ・ヒキガエルの命を軽く見ているアドルフの心情を考えさせる。 ・「静かにすべり落ちる」という様子を押さえる。 ・ロバの姿から、どんな小さな命でも大切にしなければならないという価値の自覚につなげる。 ・ロバがやさしいといった意見ばかりが出たときには、やさしさの中身を聞き返し、命を大切に思うロバの気持ちに焦点が当たるようにする。 ・行動の反省ばかり出てきたときには、その反省の内容を具体的に聞くことで、心の変化に視点を向けさせる。 ※いつまでもながめていたときの心の中を問う発問も考えられる。
終末	・教師の説話を聞く。 ・本時の学習を振り返り、出会った価値を深める。	・この間、教室から出られなくなっているトンボを見つけ、近くの窓を開けて逃がしてあげる〇〇くんの姿を見かけて、先生は心が温くなりました。そのときの〇〇くんの心の中も、ロバと同じような思いだったのかもしれない。 今日の学習で考えたことや感じたことを書きましょう。	・教材の中だけの出来事で終わらせないために、児童の身近な場面から、似た出来事を紹介する。 ・児童に感想を発表させて、価値への気付きや自覚をさらに深めさせる。

評価の視点（例）

- 中心場面での意見や振り返りシートで、どんな小さな命も大切にしなければならないことに気付く発言や記述がある。

◆◆◆教材の概要◆◆◆

よし子は、雨の日にお土産袋を持って、母とおばあさんの家に向かう。バス停留所に行くと、先にいた人々が軒下で並んでいる。よし子はバスが来ると先に待っていた人々を無視して先頭に並ぼうとするが、母に強い力でうしろに引き戻される。結局、バスに乗ったときには席はふさがっていて、よし子は母に不満を向けようとする。しかし、黙って立っている母の毅然とした横顔を見ながら、次第に自分のしたことを考え始める。

◆◆◆教材の活用◆◆◆

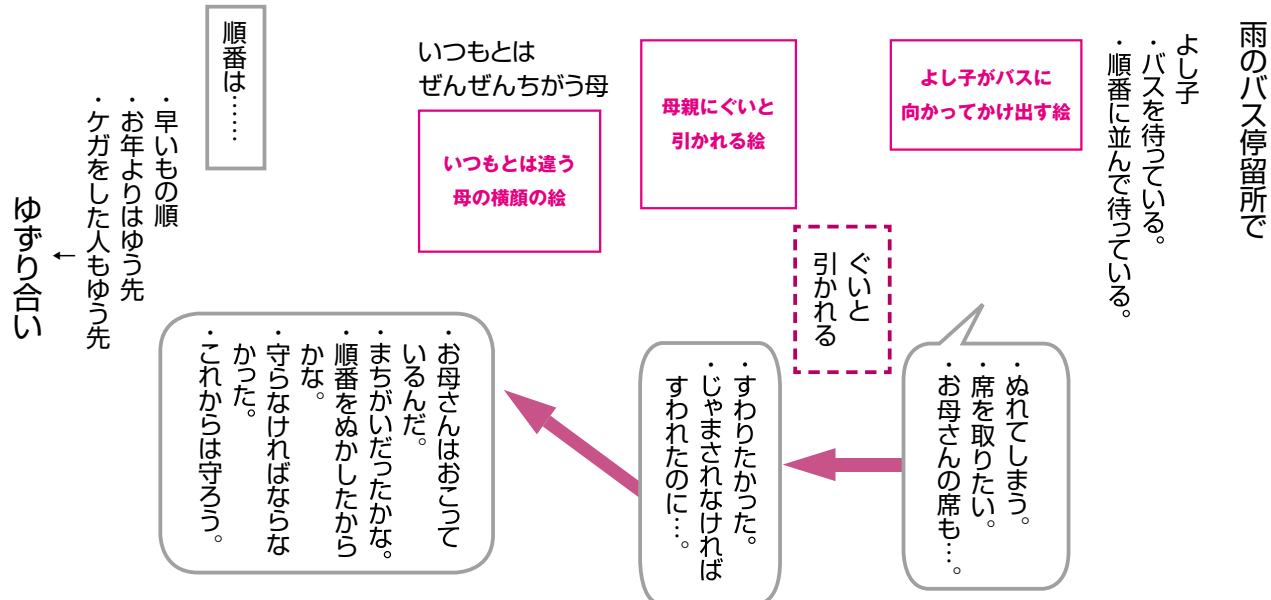
よし子は、いち早くバスに気付いて列の先頭に並べたことを、自分の機転と考えていた。この時点ではよし子は、引き戻した母の真意が理解できていない。だが、バスの中でいつもと違う母の顔を見ているうちに、改めて自分のしたことを振り返り、内省していく。

この教材を活用し、「早いもの順」という児童の視点からのきまりについて、違う視点から考えさせるとともに、他者への配慮や思いやりによって「きまり」を考えたり守ったりしようとする公德心をさらに高める授業を展開したい。

◆◆◆中心発問◆◆◆

お母さんの横顔を見ながら、よし子さんはどんなことを思っていたでしょう。

◆◆◆板書計画◆◆◆



◆◆◆道徳的価値“公德心”について◆◆◆

公德心は、社会生活の中で守るべき正しい道としての公德を大切にすることである。この公德を大切にすることが、一人一人の日常生活の中で具体的に生かされることで、住みよい社会が実現できる。

児童が成長することは、同時に社会や集団の様々な規範を身に付けていくことでもある。まず、約束やきまりを守ることができるようになることが必要である。その過程で公德心を養い、さらに、社会の法やきまりのもつ意義について考えるとともにそれを遵守し、自他の権利を尊重し、義務を大切にすることを身に付けられるようになることが大切である。

◆◆◆学習指導案（本時のねらいと展開）◆◆◆

本時のねらい

バス停に先に並ぼうとしたとき、お母さんに連れ戻されて自分の行動を考え始める主人公を通して、約束や社会のきまりを守り、公德を大切にしようとする道徳的心情を豊かにする。

本時の展開

	学習活動	発問と予想される児童の反応	指導上の留意点
導入	・教材について知る。	雨の日に困ったことはありますか。 - 傘がなくて濡れてしまった。 - 遊べなかった。	・児童の心を引きつけ、教材への導入を図る。
展開	・教材を読む。 ・教材の内容を確認する。	①主人公の名前 - よしこさん ②何をしているのかな。 - バスを待っている。 - 順番に並んで待っている。 - 雨宿りしている。	・挿絵を使いながら、教材の確認をする。
	・自分の行動を振り返って考えている主人公の心情を考える。	よしこさんは、どう考えて停留所の一番先頭に並んだのでしょうか。 - 早く乗らないとぬれてしまう。 - 早くバスに乗らないと席が取れない。 - お母さんの席も取ってあげよう。	・順番抜かしをした主人公の行動の批判にならないようにする。
	・教材を理解する。	- 教材を確認する。 ①バスに一番に乗れるのかな。 - 乗れない。 - お母さんに連れ戻される。 ②バスに乗るとどうでした。 - 席はなかった。 - 座れなかった。	・挿絵を使いながら、教材の確認をする。
	・席を取れなかった主人公の心情に共感する。	バスに乗って座れなかったとき、よしこさんはどう思ったでしょう。 - 座れた人はいいな。 - わたしも座りたかったな。 - お母さんが邪魔しなかったら座れたのに。	
	・自分の行動を振り返って考えている主人公の心情を考える。	お母さんの横顔を見ながら、よしこさんはどんなことを思っていたでしょう。 - お母さんは怒っているんだ。 - わたしがしたことは間違いだったのかな。 - 順番を守らなくてはいけなかった。 - 順番を守るとは大切だから、これからは守るようにしよう。	補助発問： 「なぜ順番を守ることが大切なのですか。」
終末	・順番について考える。	順番って、どのようにして決まるのだろう。 - 早いもの順に決まる。 - お年寄りやケガをした人は違う。 - 絶対に早いもの順というわけではない。 - 早いもの順だけど、譲り合いも必要だ。	補助発問： 「お年寄りやケガをした人が来たときはどうですか。」
	・本時の学習を振り返り出会った価値を深める。	「私たちの道徳」の「阪神淡路大震災」の写真を掲示し、価値をさらに深めさせる。 このとき、なぜこんなにきちんと並んでいられたのでしょうか。	・阪神淡路大震災で給水車を並んで待っている写真を掲示する。

評価の視点（例）

- 約束や社会のきまりを守ることについて深く考え、その考えを順番の決め方を考える場面で発言したり、振り返りシートに記述したりしている。

◆◆◆教材の概要◆◆◆

第16代アメリカ合衆国大統領エイブラハム・リンカーンの人柄を題材にした教材である。

若いころ店で働いていたエイブは、売上金の額が合わないことに気付く。昼間、布地を購入した女性客に渡した釣り銭が6セント半少なかったのである。自分の失敗に気付いたエイブは、日本円にしてわずか6円ほどの釣り銭を、風の吹く寒い日の夜2時間もかけて届けに行く。女性客の家に着いておつりをわたしたエイブは、「それだけのことで…」と驚かれ、「正直エイブ」と褒められる。しかし、エイブは「すみませんでした。」と謝り、夜更けの道をまっすぐ帰っていく。

判断に迷いがなく、エイブの正直で誠実な人柄の表れた教材である。

◆◆◆教材の活用◆◆◆

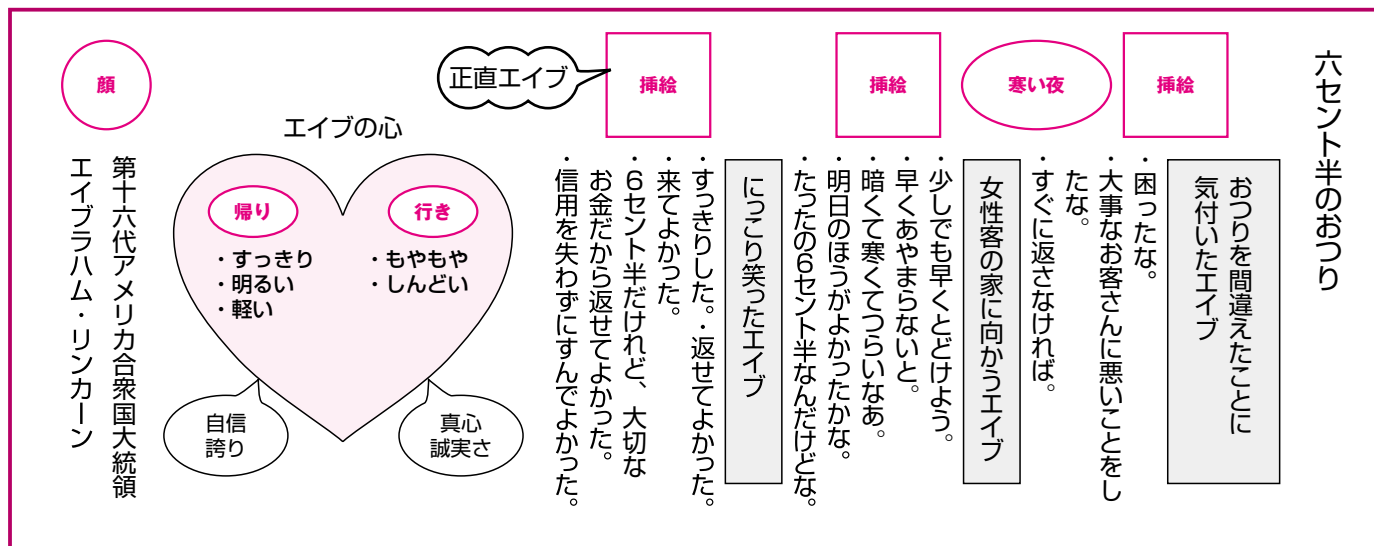
自分の過ちに気付き、すぐに伝えようとするエイブ。日本円にしてたった6円ほどのおつりのために寒い夜の道を2時間もかけて歩く。なぜ、今日のうちに返そうとしたのか。また、なぜ、女性客に褒められてもエイブは謝ったのか。これらの理由を考えることでエイブの生き方に共感させる。さらに、来た道と帰り道でのエイブの心の変容に迫ることを通して、ねらいとする価値を深めたい。うそやごまかしは相手だけでなく自分自身を偽ることになり、正直で誠実であることが快適に明るい心で生活することにつながることに気付かせたい。

迷いなく正直を貫くエイブが児童の憧れとなるであろう教材である。エイブのように正直で誠実に生きていこうとする心情を育てたい。

◆◆◆中心発問◆◆◆

6セント半を返してにっこり笑ったエイブは、どんなことを思っていたでしょう。

◆◆◆板書計画◆◆◆



◆◆◆道徳的価値“正直、誠実”について◆◆◆

児童が健康的で積極的に自分らしさを発揮できるようにするためには、自分の気持ちに偽りのないようにすることが求められる。また、自分の過ちを認め、改めていく素直さとともに、何事に対しても真心を込めて、明るく楽しい生活を心掛けようとする姿勢をもつことが大切である。過ちや失敗は誰にも起こり得ることである。そのときに、ともするとそのことで自分自身が責められたり、不利な立場に立たされたりすることを回避しようとしてうそを言ったり、ごまかしをしたりすることがある。しかし、そのような振る舞いはあくまでも一時しのぎに過ぎず、真の解決には至らない。このことによって、他者の信頼を失うばかりか、自分自身の中に、後悔や自責の念、強い良心の呵責などが生じる。それらを乗り越えようとするのが正直な心であり、自分自身に対する真面目さであり、伸び伸びと生きようとする心のすがすがしい明るさでもある。このような誠実な生き方を大切にする心を育てていくことが重要である。

◆◆◆学習指導案（本時のねらいと展開）◆◆◆

本時のねらい

エイブの考え方や行動を通して、過ちは素直に改め、正直で明るい心で生活しようとする道徳的心情をはぐくむ。

本時の展開

	学習活動	発問と予想される児童の反応	指導上の留意点
導入	・ 本時の学習に興味を持つ。	アメリカのお金を知っていますか。 ・ ドル セント	・ お金の実物、または写真を提示する。 ・ 短時間で学習に向かう姿勢をつくる。 ・ 1 セントが約 1 円であることを押さえる。
展開	・ 教材を読む ・ おつりの間違いに気付いたエイブの気持ちを考える。	おつりを間違えたことに気付いたエイブは、どんな気持ちだったでしょう。 ・ こまったな。 ・ 大事なお客さんに悪いことをしたな。 ・ すぐに返さなければ。 ・ 一晩、暗い気持ちが続くのはいやだ。 ・ すぐに返さないと気になるな。	・ 範読する。 ・ 売上金さえ調べれば、一日の仕事が終わることに触れる。 ・ 自分の失敗を反省し、すぐにおつりを届けに行こうとする気持ちを捉えさせる。
	・ 夜道を歩くエイブについて考える。	寒い夜に2時間もかけて女性客の家に向かうエイブは、どんなことを考えていたでしょう。 ・ 少しでも早く届けよう。 ・ 暗くて、寒くて、つらいなあ。 ・ やっぱり明日にしたほうがよかったかなあ。 ・ 遠いなあ。まだ着かない…。 ・ たったの6 セント半なんだけどなあ。	・ 寒い夜であったこと、2 時間もかかること、たった6 セント半であることにもかわからず、夜道に行くエイブの心中を考える。 ・ 「ちょっとそこまで」の言葉から、誠実な人柄を押さえる。 ・ 一方で、冷たい風が体にしみてつらい気持ちになっていることにも触れる。
	・ おつりを返したエイブの気持ちを考える。	6 セント半を返してにっこり笑ったエイブは、どんなことを思っていたでしょう。 ・ すっきりした。 ・ 返せてよかった。 ・ 来てよかった。 ・ 6 セント半でも、大切なお金だから返せてよかった。 ・ 信用を失わずにすんでよかった。	・ 寒い夜にもかかわらず、なぜ、明日ではなく「今日のうちに」なのか、と切り返して、エイブの気持ちに迫る。 ・ “正直エイブ”と言われていることに着目させたい。 ・ おつりを届け謝ることは、エイブにとっては当たり前のことで、他者に対する気持ちにとどまらず、自分自身に対して正直である心のすがすがしさに触れる。 ・ 帰り道のすがすがしく晴れ晴れとした明るい心情に触れ、その基盤を成している価値“正直な心”に迫る。
終末	・ 今日の学習で感じたこと、考えたことを振り返る。	今日の学習で、どんなことを学びましたか。 ・ 正直でいると、気持ちがいい。 ・ 自分の間違いを素直に認める人はカッコいい。 ・ ごまかしたり、嘘をついたりすると、心は晴れない。	・ エイブの心はみんなの心の中にもあることを話し、“そっとした決意”を促したい。 ・ 単なる感想に終わらないように今後の自己を見つめさせる。

評価の視点（例）

- 素直に過ちを改め、正直に明るい心で生活しようとする発言をしたり、そのような気持ちを振り返りの場面でまとめたりしている。

◆◆◆教材の概要◆◆◆

アメリカで生活していた野口英世は、41歳の頃に病気が重なるという不運に見舞われた。病後の静養をしていたとき、幼い頃から支えられた多くの人々を思い出し目頭を熱くする。この頃、中・南米やアフリカで黄熱病が発生し、英世は病み上がりであるにもかかわらず黄熱病研究グループの一員となり、中・南米に渡る。さらには研究に取り組んで10年ほどたった頃、西アフリカで黄熱病が再発し、衰えた体でありながらもアフリカへ渡る。疲れたからだにむち打って研究に打ち込んだが、とうとう英世自身が黄熱病にかかり倒れてしまう。高熱にうなされながら母の夢を見た英世は、夢の中で感謝の気持ちを告げ自分の人生に満足して息を引き取った。そんな英世の思いは世界中の人々に伝わり死を惜しまれた。そして「科学への貢献を通して、人類のために生き、人類のために死す」と刻まれた墓碑が建てられ英世の業績が伝えられている。

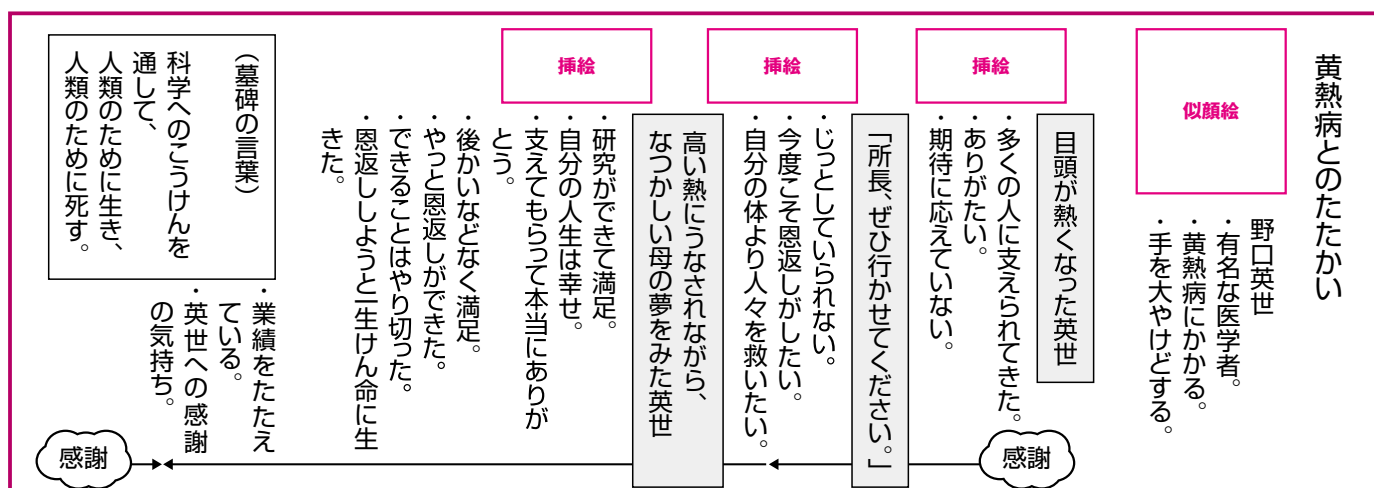
◆◆◆教材の活用◆◆◆

英世がなぜ命の危険を冒してまで黄熱病とたたかったのか……。それは、ただ研究が好きだったからではない。自分を支えてくれた多くの人々への感謝の気持ちとそれに応えたいという英世の強い意志があったからである。黄熱病にかかり命を落とすことになっても、自分の人生に満足し感謝の気持ちを持っていた英世。そんな英世の生き様や英世の気持ちに寄りそうことを通して、感謝の気持ちの上に自分にできることは何かを考え行動に移すことの大切さを児童に感じ取らせたい。さらに、人々の期待に応え、人々のために生きようとする英世の気持ちが世界中の人々に届いたことから、感謝の気持ちが人と人との温かい関係につながっていくことにも触れ、感謝することの本当の意味について考えさせたい。

◆◆◆中心発問◆◆◆

高い熱にうなされながら「みなさんのおかげです。」と言った言葉には、英世のどんな思いが込められているのでしょうか。

◆◆◆板書計画◆◆◆



◆◆◆道徳的価値「尊敬・感謝」について◆◆◆

よい人間関係を築くためには、互いを認め合うことが大切であるが、その根底には相手に対する尊敬と感謝の念が必要である。人々に支えられ助けられて自分が存在するという認識に立つとき、相互に尊敬と感謝の念が生まれてくる。高学年の段階においては、感謝の対象が人のみならず、多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っている日々の生活そのもの、さらにはその様な中で自分が生きていることに対する感謝にまで広げることが必要である。そしてそれに応じて自分は何をすべきかを自覚できるようにし、進んで実践できるところまで指導することが求められている。さらに、自分の心の中の感謝の気持ちが相手の心に届き、潤いのある人間関係が築かれるものであることを自覚できるようにすることが大切である。

◆◆◆学習指導案（本時のねらいと展開）◆◆◆

本時のねらい

黄熱病にかかり、死の床で感謝の気持ちを述べる英世の思いを考えることを通して、日々の生活が人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応えようとする道徳的心情を豊かにする。

本時の展開

	学習活動	発問と予想される児童の反応	指導上の留意点
導入	・ 野口英世について知る。	野口英世を知っていますか。	・ 千円札を準備する。 ・ 野口英世の生い立ちや業績、黄熱病について簡単に触れ、教材への解説的導入を図る。
展開	・ 教材を読む。		・ 発問に入る前に英世が世界的に注目される医学者になっていたこと、病気が重なっていたことをおさえる。
	・ 多くの人々の支えを思い出す英世の気持ちを考える。	英世は、どんな気持ちから目頭が熱くなったのでしょうか。 ・ 幼い頃から色々なことがあったな。 ・ 多くの人に支えられてきたな。 ・ ありがたい。 ・ みんなのおかげで今の自分がある。 ・ 周りに甘えているだけで、まだ十分に周りの期待に応えていない。	・ 英世がここまでになったのは自分ひとりの力だけではなく、たくさんの人々の支えがあったということに深く感謝している気持ちを十分に出させる。
	・ 周りの心配を振り切って決断したときの英世の心情を考える。	エクアドルへ行くとき「ぜひ、行かせてください。」と答えた英世は、どんなことを思っていたのでしょうか。 ・ じっとしていられない。 ・ 今度こそ人々を助けて恩返しをしたい。 ・ 自分の体のことより人々を救いたい。	・ 題名に立ち返り、なぜそこまでして黄熱病とたたかったのかを考えさせる。 ・ 決断を後押ししたのは「感謝」の気持ちであることに気付かせる。
展開	・ 死の直前の英世の気持ちを考える。	高い熱にうなされながら「みなさんのおかげです。」と言った言葉には、英世のどんな思いが込められているのでしょうか。 ・ 研究ができて満足だった。 ・ みんなのおかげで研究ができた。 ・ 支えてもらって本当にありがたう。 ・ 私の人生は幸せだった。 ・ やっと恩返しができた。 ・ 恩返ししようと一生懸命に生きた。 ・ 支えてもらったことに応えようとした。 ・ 人のために役立とうと頑張って生きた。 ・ できることはやりきった。	・ 黄熱病にかかってしまったが、多くの人に支えられた感謝の気持ちとそれに応えようと思えることができた満足感でいっぱいだったことに気付かせ、ねらいに迫る。 ・ 墓碑の言葉から後世に英世の気持ちが人々に伝わり、感謝の気持ちが人と人をつなぐことにも触れる。
終末	・ 本時の学習を振り返り、出会った価値を深める。	・ 「私たちの道徳」のことに触れ、道徳的価値をさらに深めさせる。 「支えてくれる その思いを感じよう」 「支えてくれる その思いにこたえよう」	・ 支えられていることに対してどんなことを感じているかなど、道徳的心情を豊かにすることにつなげる。

評価の視点（例）

- 人々の支え合いや助け合いで日々の生活が成り立っていることに感謝し、自分は何をすべきなのかについて考えたり発言したりするなど、自己を省みる様子が見られる。

◆◆◆教材の概要◆◆◆

ロベータは、ステージに立つ夢をもつ俳優志望だが、養成所に通う余裕がないため、窓の外に聞こえてくる練習の様子を盗み聞きながら、自分で練習を続けていた。守衛のジョルジュじいさんは、そんなロベータを、温かく見守ってくれていた。ある日、ロベータのもとに「おくりもの（養成所の学費）」が届けられるようになる。しかし、ロベータが、養成所での練習が始まり、周りからも実力を認められようになった頃、「おくりもの」が届かなくなり、通うことができなくなってしまった。そんなとき、ロベータは、「おくりもの」は、ジョルジュじいさんからだったことに気付くが、じいさんは病に倒れてしまう。ロベータは、身寄りのないじいさんを自分が看病することに決めるが、じいさんは亡くなってしまった。ロベータは、ジョルジュじいさんが最後に書いた手紙を読み返して、じいさんの「思いやり」の心に触れ、何かを決意したかのように遠くに視線を移した。

◆◆◆教材の活用◆◆◆

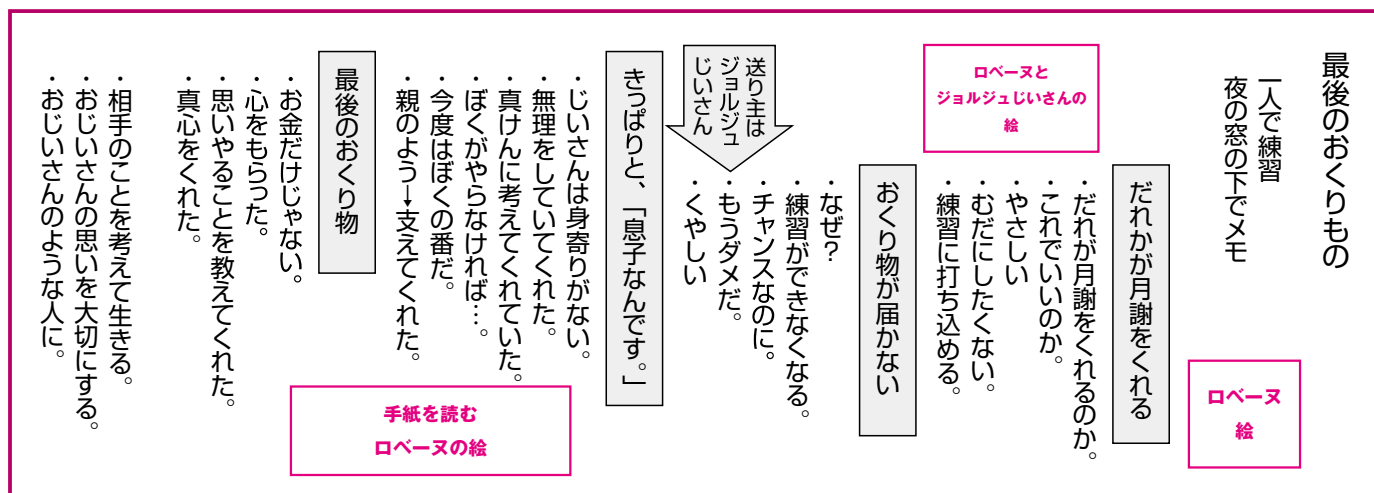
人は時に自分の思い通りにならないと苛立ち、自分自身が努力することを忘れてしまったり、他人のせいになじたりすることがある。また、自分の夢に向かって順風満帆の人生を歩んでいるときは、その陰で支えてくれている人の存在に気付かず、有頂天になってしまうことも少なくない。

本教材は、優しい気持ちに後押しされて頑張ろうとする主人公が、実は自分のこと最優先に考えてもらっていたことに気づき、真の思いやりを自分に向けてくれていた人の心に触れ、他人を思いやる生き方をしようとする内容である。恩人の命と引き替えに、そのことに気付く主人公が、本当の優しさに触れ心を動かされる姿を通して、自分の困難を乗り越えて相手を思いやる心の深さについて考えさせる点を大切に授業を展望したい。

◆◆◆中心発問◆◆◆

ジョルジュじいさんの「最後のおくり物」って何だったのだろう。

◆◆◆板書計画◆◆◆



◆◆◆道徳的価値 “思いやりの心” について◆◆◆

よい人間関係を築くには、相手に対する思いやりが不可欠である。思いやりとは、相手の立場を推し量り、自分の思いを相手に向けることである。そして、それは具体的には温かく見守り接することや、相手の立場に立った励ましや援助などを含む親切な行為などとして表れることが期待される。特に学校においては、多様な人との直接的な関わり合いの機会を多くし、人間愛を根底とした思いやりや親切な行為の意義を実感できる機会をつくっていくことが大切である。

◆◆◆学習指導案（本時のねらいと展開）◆◆◆

本時のねらい

ジョルジュじいさんの思いに気付くロベエヌの気持ちを考えることを通して、相手の立場に立った思いやりある行動の意味を考えて行動しようとする道徳的心情を豊かにする。

本時の展開

	学習活動	発問と予想される児童の反応	指導上の留意点
導入	・教材について知る。	「思い」は見えるかな。見えないかな。 ・見える、見えない。 ・行動することで見える。 ・心の中は見えない。	・児童の「言葉」に対するイメージを膨らませる。 ・価値への導入と位置づける。
展開	・教材を読む。		・話の筋が理解できるように範読する。 ・出来事を簡単に整理しながら挿絵等でポイントを押さえる。
	・悔しくなるロベエヌの気持ちを考える。	くちびるをかんだロベエヌは、どんな気持ちだったでしょう。 ・なぜ学費をくれないのか ・せっかく認められてきたのに。 ・チャンスがなくなってしまう。 ・どうしよう、もうダメだ。	・児童の発言について、そう思った理由や根拠を明らかにする。 ・自分の都合ばかり考えるロベエヌの考えに気付かせる。 ・価値を追求する観点で、なぜそう思ったのか補助発問を通してじっくりと深めさせる。
	・初めてじいさんの立場に立ったロベエヌの気持ちを考える。	きっぱりと「息子なんです。」と言ったロベエヌは、どんなことを思っていたでしょう。 ・ぼくのために無理をしたのか。 ・ありがとう。感謝しています。 ・今度はぼくがお返しをする番だ。 ・じいさんは身寄りがない。 ・ぼくがやらなければ…。 ・親のようにぼくを支えてくれていたんだ。	・無理をしてまで学費を工面しようとしていたじいさんの行動を押さえながら、じいさんの思いやりの深さを感じ、それに応えようとするロベエヌの姿に気付かせる。
	・手紙を読んだロベエヌの気持ちを考える。	手紙を読んで、ロベエヌはどんなことを考えたのだろう。 ・じいさんありがとう。 ・本当の思いやりを知った。 ・相手のことを考えて生きていく。 ・じいさんの思いを大切にする。 ・じいさんのような人になるよ。 ・立派な役者になるよ。 ・じいさんの夢をかなえるよ。	・死を目の前にしてもなお自分に思いを寄せるじいさんの心に触れたロベエヌの気持ちを考えさせる。
終末	・価値について考えを深める。	ジョルジュじいさんの「最後のおくり物」って何だったのだろう。 ・もらったのはお金だけじゃない。 ・心ももらった。 ・じいさんの心が届いた。 ・ぼくのことをよく考えてくれた。 ・相手を思いやることを教えてくれた。 ・自分の命を削ってぼくに真心をくれた。	・相手の立場に立って、自分のできる限りの「思いやりの心」をくれたじいさんの心について考えさせる。 ・「思いやりの心」に視点をあて、考えを深めさせる。
	・本時の学習を振り返る。	・相手を思いやるという意味が分かった。 ・相手の立場に立って考える事が大切だと感じた。	・学習を振り返り、感じたことや考えたことをワークシートに書かせる。 ・意見を交流させて、出会った道徳的価値の深化を図る。

評価の視点（例）

- “相手の立場に立って思いやる”ということの意味について、自分自身のことを振り返りながら考えている発言や記述がある。

◆◆◆教材の概要◆◆◆

祖父の最期を看取る主人公の思いや、家族の愛情を通して、生命の有限性や尊さを感じ取ることができる教材である。毎日祖父の見舞いに行き、少しでも元気づけようとする主人公の思いを、丁寧に考えさせるようにしたい。また、亡くなった祖父が残したのし袋から、自分の生命が自分のものだけでなく、祖父の深い愛情や思いによって支えられていることに気付くことができる。家族の愛情やつながりを考えることで、生命のつながりについても考えることができる。生命の有限性、連続性に着目させながら、自他の生命を尊重する心情を育むことができる教材である。

◆◆◆教材の活用◆◆◆

生命はかけがえのないものだということは、知識的にも常識的にも分かっている児童が多い。その中で、なぜ命はかけがえのないものなのか？それは、唯一無二の物であることや、様々な人々との支え合いの中で育まれていること、さらに、祖先から自分そして子孫へ受け継がれていくものであることを再確認し、生命のかけがえのなさを自覚することが大切であると考え。そして、生きることの喜び、死の重さ、共に生きることの素晴らしさを考え、自他の生命を尊重し、与えられた命を精一杯に、力強く生き抜こうとする心を育てたい。

◆◆◆中心発問◆◆◆

のし袋の中の手紙に書かれた字を見たとき、主人公はどんなことを思っただろう。

◆◆◆板書計画◆◆◆



受けつぐ

- ・じいちゃんの方も生きる。
- ・自分の命を精一杯生きる。
- ・じいちゃんのように家族を大切に。



三ヶ月後 死

- ・最後の最後までくを大切に思ってくれていたんだ。
- ・ありがとう。
- ・いつまでも見守っていてね。
- ・じいちゃんの方もがんばって生きていくよ。

次の日から 毎日お見舞い

- ・一日でも長生きしてほしい。
- ・一緒に時間を楽しく過ごしたい。
- ・毎日行けば治るかも知れない。
- ・精一杯のことをしたい。



じいちゃん あと3ヶ月の命

何であと三ヶ月なんだろう。
悲しい・悔しい・信じられない。
何とか治らないものか。
何かできないかな。
毎日お見舞いに行こう。
もつと一緒にいたい。



その思いを受けついで のしぐくろ



◆◆◆道徳的価値 “生命の尊さ” について◆◆◆

生命を大切に尊重することは、かけがえのない生命をいとおしみ、自らもまた多くの生命によって生かされていることに素直に応えようとする心の表れと言えます。高学年の段階においては、個々の生命が互いを尊重し、つながりの中にあるすばらしさやかけがえのなさについて理解を深めるとともに、生死や生き方に関わる生命の尊厳など、生命に対する畏敬の念を育てることが大切です。また、様々な人々の精神的なつながりや支え合いの中で一人一人の生命が育まれ存在すること、生命が宿る神秘、祖先から祖父母、父母、そして自分、さらに、自分から子供、孫へと受け継がれていく生命のつながりをより深く理解できるようになります。家族や仲間とのつながりの中で共に生きることのすばらしさ、生命の誕生から死に至るまでの過程、人間の誕生の喜びや死の重さ、限りある生命を懸命に生きることの尊さ、生きることの意義を追い求める高尚さ、生命を救い守り抜こうとする人間の姿の尊さなど、様々な側面から生命のかけがえのなさを自覚し生命を尊重する心情や態度を育むことができるようにすることが大切です。

◆◆◆学習指導案（本時のねらいと展開）◆◆◆

本時のねらい

大好きな祖父の死を経験した主人公を通して、生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重しようとする道徳的心情を育てる。

本時の展開

	学習活動	発問と予想される児童の反応	指導上の留意点
導入	・教材についての関心を高める。	この中には何が入っているでしょう。 ・お金、手紙	・のし袋を用意し教材について関心を持たせる。
展開	・教材を読む。 ・じいちゃんの状態を知った主人公に共感する。 ・お見舞いに行く主人公の心情に共感する。 ・のし袋の中の手紙の字をみた時の主人公の心情を考える。 ・じいちゃんの思いを受けつぐとはどのように生きることなのかを考える。	声をあげて泣いているとき、ぼくはどんなことを考えているだろう。 ・悲しい。 ・何とか直らないのか。 ・毎日お見舞いに行こう。 ・残された時間を大切にしよう。 ・おじいちゃんに何かできないかな。 ・信じられない。・うそだ。 ぼくは、どんな思いで毎日お見舞いに通ったのだろう。 ・一緒にいる時間を大切にしたい。 ・精一杯のことをしたい。 ・僕の顔を見せたらきっと喜んでくれる。 ・毎日行けば治るかもしれない。 のし袋の中の手紙に書かれたふるえて力のない字を見たとき、ぼくはどんなことを思っただろう。 ・最後の最後までぼくを大切に思ってくれたんだ。 ・ぼくをかわいがってくれてありがとう。 ・いつまでもぼくを見守っていてね。 ・じいちゃんの分もがんばって生きていくよ。 その「思い」を受けついで。受けつぐってどういうことなのだろう。 ・生き抜くこと。 ・自分の命を精一杯生きること。 ・じいちゃんの分も生きること。 ・家族を大切にすること。	・教材を範読する。 ・挿絵を用いてイメージをもたせる。 補助発問： 「温かな、強い思いってどんな思いだろう。」 ・じいちゃんの思いが僕の中に生き続けていくことやおじいちゃんから受け継いだ命を精一杯生きていくことなどの思いを感じ取らせたい。 ・教材のタイトルに戻って、受けつぐとはどのように生きていくことなのかを問うことで、生命尊重についての考えを深める。 ・生命尊重に照らして板書を整理し、焦点化を図るようにする。
終末	・この時間に感じたこと、考えたことをまとめる。	今日の学習を振り返って感想を書きましょう。	・BGM = オルゴールやピアノの音楽。

評価の視点（例）

- 自他の生命を大切に思い、今ある生命を精一杯生き抜こうとする思いが、中心場面での発言や振り返りシートの記述から窺える。

◆◆◆教材の概要◆◆◆

町内会の草刈り作業に家族の代表として参加してほしいと母親から頼まれた明は、仕方なく参加する。初めはしぶしぶ参加していた明だが、町内の人々に教えられながら草刈り作業をしていくうちに、お年寄りたちには重労働になる仕事があることに気付き、自ら進んで作業する。そのことによって、町内会の人々に中川家の代表として受け入れられる。自分も少し大人になったような気がし、母のカレーが甘いとを感じる。翌日から自ら積極的に町の人々と関わろうとする。

◆◆◆教材の活用◆◆◆

自分で考え、自分の意志で決定すれば、人はそれに対し責任をもち、誠実に実行するようになる。自律的な生き方から生きる自信が育ち、一個の人間としての誇りがもてるようになる。

母に無理矢理頼まれて、町内作業に参加することになった明。いつもは親任せ他人任せの明だが、そこでの「草刈り作業」の体験から、中学生の自分でも大人の中で役に立てることを知る。さらに、自ら気付いたことを実行することによって、町内の人々に感謝され、自分も大人の仲間入りを果たしたように感じる。「自主的に考える」・「自ら進んで実行する」ことの大切さと、そのことによって得た“達成感”が“生きる自信と誇り”に通じることに気付かせたい。

◆◆◆中心発問◆◆◆

明はどういう思いから、「よし」と言いながら散らばる草や枝を集め始めたのだろう。

◆◆◆板書計画◆◆◆

自分から

- ・お年寄りには大変。自分がやろう。
- ・みんな頑張っている。自分に出来ることを頑張ろう。
- ・もつと役に立ちたい。自分に出来ることはないかな。

「大人になったような気持ち」なぜだろう。

自分もやればできる。
みんなに認められた…中川家代表
大人の人に頼りにされた。
地域の人といっしょにやってみて楽しかった。
大人の人との仕事をやりきった満足感。

心に新しく芽生えたものは何だろう。

- ・自信・達成感・自主自律
- ・大人への仲間入りのうれしさ
- ・チャレンジ精神

ふと周りを見ると…

よし!

・ほめられて
きれいになって

人まかせ・指示通り

ええっ、どうして僕なの？

・お母さんが出ればいい。お父さんが帰ってくる。

・まだ中学生・大人の中で作業するのは嫌だ。

・ザクザク草を刈る

・やる気が出てきた。

町内会デビュー

登場人物…明・お母さん



◆◆◆道徳的価値「自主、自律の精神」について◆◆◆

一つの行為の意味を自分で考え、自分の意志で決定したものだという自覚に至れば、人間はそれに対して責任をもつようになり、誠実に実行するようになる。そこに道徳的自覚に支えられた自律的な生き方が生まれ、自らの責任によって生きる自信が育ち、一個の人間として誇りがもてるということを考えさせることが大切である。

◆◆◆学習指導案（本時のねらいと展開）◆◆◆

本時のねらい

大人に混じって作業をする中で、自分に出来ることを発見し、自ら進んで作業しようとした主人公の道徳的变化を考えることを通して、自主的に考えて自分を律して生きていこうとする道徳的実践意欲を育てる。

本時の展開

	学習活動	発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	・今日の教材について知る。	地域の清掃や行事に参加したことはありますか。また、そのときどんな気持ちでしたか。	・教材への方向付けをする。
展開	・教材を読む。		・話の筋がわかるように範読する。
	・母に頼まれたとはいえ、素直にうなずけない明の心情を理解する。	「ええっ、どうして僕なの」といった明は、どんなことを思っていたのだろう。	・普段、地域の作業等を親任せ、他人任せにしている明の意識を押さえる。
	・作業を進めていくうちに作業に気持ちが入っていったことを理解する。	・お母さんが出ればいいのに。 ・お父さんが帰ってくるじゃないか。 ・中学生なのに大人の中で作業するなんて嫌だ。 ・知り合いもいないのに、なんで僕が…。	
	・自ら仕事を見つけ、進んでやろうとした明の心の変化を考える。	ザクザクッと草を刈っているときはどんな気持ちでいただろう。 ・ほめられ、やる気が出てきた。 ・作業の後がはっきりわかり、面白くなってきた。 ・気分が高まり、ペースが上がる。	・初めはしぶしぶだった主人公が、町の人々と関わるうちに作業に気持ちが入っていき、ほめられてやる気が出てきたが、まだ自主的なものではない。
終末	・自らの意志で行動することができた明がどのように変わっていったかを理解する。	明はどういう思いから「よし」と言いながら散らばる草や枝を集め始めたのだろう。 ・足を取られそうな人がいる。危ない。 ・草木は重く、お年寄りには重労働だから、中学生の僕がしよう。 ・みんな頑張っているし、自分も何かできることを頑張ろう。 ・お年寄りを助けてあげたい。 ・もっと役に立ちたい。 ・もっとやってみたくなった。	・周囲の様子を見るうちに、お年寄りにとって作業の一部が重労働になっていることに気付き、自ら積極的に作業に関わろうとした主人公の心の変化に気付かせる。
	・自らの意志で行動することができた明がどのように変わっていったかを理解する。	明が、大人になったような気持ちがしたのはなぜなのだろう。 ・僕もやれば出来るんだと思えたから。 ・中川家の代表とみんなに認められたから。 ・大人の人達に頼りにされ、役に立ち、うれしかったから。 ・地域の人と一緒に作業して仲良くなったから。 ・大人と仕事をやりきった満足感から。	・自発的な行動によって自信をつけた主人公の変化について考えさせる。 補助発問： 『「大人になった気持ち」とはどんな気持ちか。』 ・いつまでも子どもじゃない。しっかりしなくては。 ・大人の人に交じって作業できるんだ。
終末	・本時の学習を振り返り、出合った価値を深める。	明の心の中に新しく芽生えたものは何だろう。 ・自信 ・達成感 ・地域の人との連帯感 ・自主自律の心 ・大人への仲間入りのうれしさ ・チャレンジ精神	・翌日の行動に主人公の心の成長が現れていることを意識させる。 ・生徒に発表させ、価値への気付きや自覚をさらに深めさせる。

評価の視点（例）

- 中心場面での意見や振り返りシートに、自らを律し、自分や社会に対し誠実で責任ある行動をとることの大切さについて考える発言や記述がある。

◆◆◆教材の概要◆◆◆

甲子園を目指してS高校に進学した主人公は、新チームのキャプテンとなった。新人戦で負けた後のチームのやる気のなさに部員たちを注意しとがめるうちに、みんなの心が自分から離れてしまい、悩む。そんな中、右肘を故障しプレイができなくなる。野球をやめようかとつぶやいたとき、父親から一喝され、自分のできることをして野球を続けようと決心した主人公は、部員を見つめ、練習の準備やアドバイスをする。そして、夏の大会を前にして思いがけず背番号10をもらう。このとき起こるチームメイトの温かい拍手によって主人公は、多くの人の善意や支えに気付き、それに感謝する。主人公は補欠のキャプテンとしてベンチ入りし、甲子園出場が実現する。

◆◆◆教材の活用◆◆◆

野球部のキャプテンである主人公が、自分の役割について考えたり、責任を果たそうとしたりする場面や、チームのために努力を重ねて、ベンチ入りを果たすという場面に目がいてしまうが、道徳的論点はベンチ入りのメンバーに選ばれたのは、チームメイトや監督、家族などの支えや温かい心があったからであり、それに対する感謝の気持ちが表れているところである。そこで、主人公がチームメイトの拍手に対して、深々と頭を下げる場面に目を向けさせたい。何かに取り組むとき、自分が積み重ねる努力だけがあるのではないこと、支えてくれた周りの人たちの存在があることに気付き、感謝の気持ちを表すことを意識し、実行することの大切さを感じさせたい。

◆◆◆中心発問◆◆◆

深々と頭を下げながら、心の中で「僕」はどんなことを言っているだろう。

◆◆◆板書計画◆◆◆

・一緒に野球を続けさせてくれてありがとう。

・喜んでくれてありがとう。

・監督、みんな、家族のおかげだ。

・自分だけで野球をしているつもりになつていた。

・野球が好きだからこの学校を選んだのだ。

・自分のできることをしよう。

拍手

どんな思いが込められているのだろうか。

拍手

どんなことを考えただろう。

・自分だけで野球を続けているうちに、みんなの心が自分から離れてしまい、悩む。

・右肘を故障しプレイができなくなる。

・父親から一喝され、自分のできることをして野球を続けようと決心する。

・チームを助けてくれてありがとう。

・これからよろしく。

・一緒に頑張ろう。

・自分だけで野球を続けているうちに、みんなの心が自分から離れてしまい、悩む。

・右肘を故障しプレイができなくなる。

・父親から一喝され、自分のできることをして野球を続けようと決心する。

・チームを助けてくれてありがとう。

・これからよろしく。

・一緒に頑張ろう。

◆◆◆道徳的価値“感謝”について◆◆◆

感謝の心は、他の人が自分のことを大切に思ってくれていることに触れ、相手の行為をいわば「心の贈り物」としてありがたみを感じたときに起こる人間の自然な感情である。

多くの人々の善意や支えにより、日々の生活が成り立ち、現在の自分があることを踏まえ、それに対する感動や喜びが自ずと感謝の心となって表出されるものであることについての理解を深めることが必要である。そして、自分の心の中にある感謝の気持ちを素直に表現し、それが相手の心に届くことによって潤いのある人間関係が築かれるものであることを自覚させることが大切である。

◆◆◆学習指導案（本時のねらいと展開）◆◆◆

本時のねらい

部員や監督の支え等で今の自分があることに気づく主人公の道徳的変化を考えることを通して、周りの人々の善意や支えに感謝し、応えようとする道徳的実践意欲を高める。

本時の展開

	学習活動	発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	・ 高校野球について知る。	高校野球の試合を見たことがありますか。 ・ ある ・ ない	・ 教材への方向付けをする。
展開	・ 教材を読む。 ・ 自分だけが頑張っているとチームメートを非難する心情を理解する。 ・ 野球や仲間に対する思いを振り返った後の「僕」の考えを理解する。 ・ チームメイトの「僕」に対する思いに共感する。 ・ 様々な人に支えられて頑張ってきた「僕」の感謝の気持ちと感動に共感する。	どんな思いで「キャプテンなんかやってられんわ」と言ったのだろう。 ・ 部員に対して「なぜついてきてくれないんだ」 ・ 自分のリーダーシップについて。 ・ これからどうしよう。 父に一喝された後、なかなか寝付けなかった「僕」は、どんなことを考えただろう。 ・ お父さんはわかってくれると思ったのに。 ・ これからどうしよう。 ・ 続けることに意味はあるのだろうか。 ・ 僕の野球に対する思いって何だろう。 ・ まだ野球をしたい。 ・ 自分だけで野球をやっているつもりになっていた。 ・ 自分のできることをしよう。 2回目の拍手にはどんな思いが込められているのだろう。 ・ ありがとうキャプテン ・ これまでチームを引っ張ってくれてありがとう。 ・ これからもよろしく。 ・ またサポートをしてほしい。 深々と頭を下げながら、「僕」は心の中でどんなことを言っているだろう。 ・ ついてきてくれてありがとう。 ・ 認めてくれてありがとう。 ・ みんなのおかげで、ここまでこられた。 ・ みんなが支えてくれたから、頑張れる。 ・ キャプテンを務めさせてくれてありがとう。 ・ 野球を続けてこられて良かった。	・ 教材を範読する。 ・ 周囲の思いや支え、協力に気付いていない主人公からチームメイトの心が離れていくことを押さえる。 ・ 反省しか出てこない場合、補助発問によって、なかなか寝付けずに、どんなことを考えたから翌日からの行動の変化につながるのかを考えさせる。 補助発問： 「どんなことを考えて、次の日からの行動が変化したのだろう。」 ・ 中心発問の前に、チームメイトの変化を押さえることで、双方向の感謝に気付かせたい。 ・ 1回目の拍手は形式的なものが多いと考えられるが、2回目の大きな拍手にはチームメイトの「僕」に対する信頼や尊敬、感謝などの思いが込められていることに気付かせたい。 ・ 2度目の礼の意味に対する考えを深めるための補助発問として、誰に対するどんな思いかを考えさせる。
終末	・ 本時の感想を記入する。	今日の授業で考えたことや感想を書こう。	・ 自分の生き方に重ねて考えられている感想を紹介する。

評価の視点（例）

- 中心場面での意見や感想文に、自分も他者も共にかけがえのない存在であることを自覚し、様々な形で表れる思いやりや感謝の気持ちが、自他の心の絆をより強くしていることについて考える発言や記述がある。

◆◆◆教材の概要◆◆◆

主人公の裕介は、病気のために入退院を繰り返している。家族や友達、キミばあちゃんはそんな裕介を気にかけて心の底から心配している。しかし、皆の心配は裕介の悩みの解決にはならず、「親にも心配や迷惑ばかり掛けて心苦しいし、何のために生きているのかな、生きていても仕方ないのじゃないか」と漏らす。裕介の悩みの深さを知ったキミばあちゃんは、同じように憂い悩んだ広瀬淡窓を紹介する。本の話から裕介は、淡窓の生き方が医師倉重の一喝で変化したことを知る。また、淡窓の「万善簿」の実践から、病弱でも、否病弱なるが故に権藤生の死に黒丸を連ねる人間広瀬淡窓を通して、人間として精一杯生きることが大切であることを知る。

◆◆◆教材の活用◆◆◆

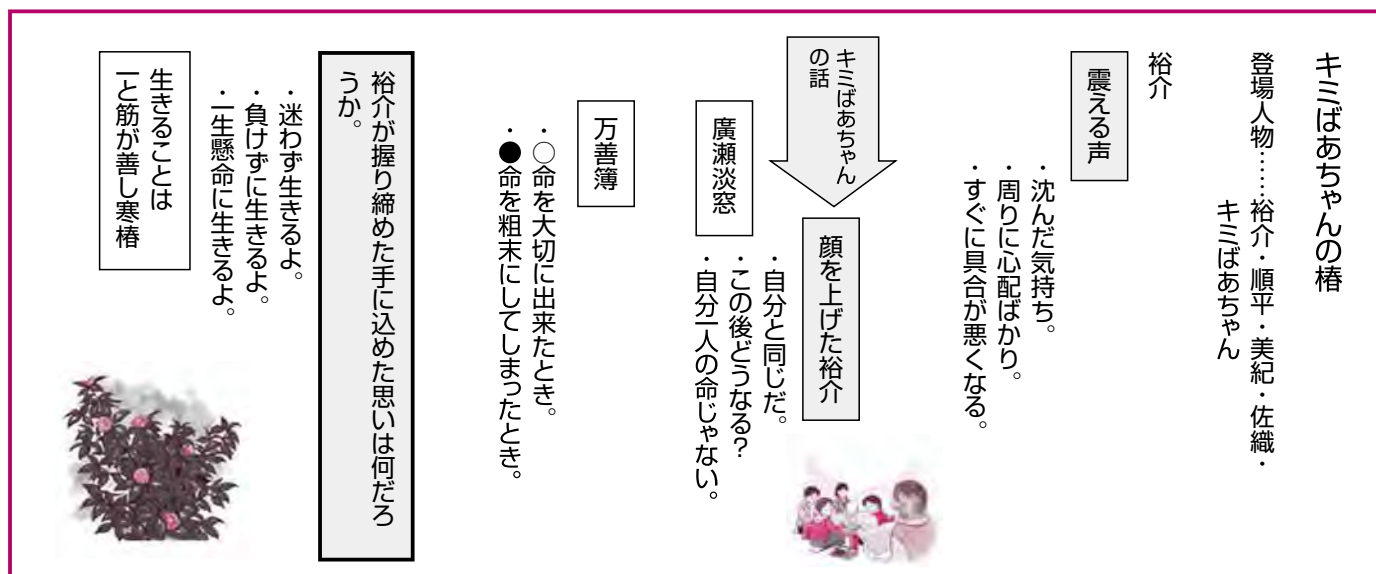
自己の生命の尊厳、尊さを深く考え、生きていることの有り難さに深く思いを寄せることは、自他の生命を尊重して生きることにつながると考える。

広瀬淡窓の生き方に深い感銘を受けて生きてきたキミばあちゃんの言葉から、「生きること」を考えさせられる裕介。医師倉重の淡窓への言葉から「命の連続性」、「万善簿」の話から「命の有限性」、そして、キミばあちゃんや友達とのやりとりから「命の偶然性」に気付かせたい。また、生徒たちに、裕介に自分を重ね、「生きること」について考えさせたい。

◆◆◆中心発問◆◆◆

裕介が握り締めた手に込めた思いは何だろう。

◆◆◆板書計画◆◆◆



◆◆◆道徳的価値“自他の生命の尊重”について◆◆◆

生命を尊ぶことは、かけがえのない生命をいとおしみ、自らもまた多くの生命によって生かされていることに素直にこたえようとする心の現れといえる。生命の尊厳に気付かせ、生命あるものは互いに支え合って生き、生かされていることに感謝の念をもたせる手がかりとして、自分が今ここにいることの不思議（偶然性）、生命にいつか終わりがあること（有限性）、生命はずっとつながっていること（連続性）を考えさせることが大切である。

◆◆◆学習指導案（本時のねらいと展開）◆◆◆

本時のねらい

病気を苦にしている裕介が、キミばあちゃんから広瀬淡窓の話を読み、沈んだ気持ちから脱していく。その道徳的変化を考えることを通して、生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重しようとする道徳的実践意欲を高める。

本時の展開

	学習活動	発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	・教材について知る。		・教材への方向付けをする。
展開	・教材を黙読する。 ・裕介の沈んだ心情、自分の生命の価値も否定するまでに至った裕介の心情を理解する。 ・広瀬淡窓について知る。 ・話を聞き、自分の生き方、生命に思いをはせる裕介の思いを考える。 ・「生きることの意味」「生きること」を考え、自他の生命を尊重しようという意欲を高める。	裕介の震える声にはどんな思いが含まれているだろう。 ・一生病院暮らしかな。 ・入退院を繰り返すのは苦しい。 ・何のために生きているのか。 ・周りの心配が心苦しい。 顔を上げた祐介は、どんなことを考えていただろう。 ・自分と同じだ。 ・この後どうなったのだろう。 ・そうか、自分一人の命じゃないんだ。 ・心配してくれている家族や友達に申し訳ないことをしてきたんだ。 病弱な広瀬淡窓が万善簿をつけていたことを知ってどんなことを考えただろう。 ・自分が病気ののに人の生命を大切にするなんてすごい。 裕介が握り締めた手に込めた思いは何だろう。 ・負けずに生きるよ。 ・自分の生命を大切にしよう。 ・弱気になっていたけど、もう迷わずに生きていくよ。 ・気持ちをしっかりもって生きる生き方を大切にしよう。 ・ありがとう、頑張ってるよ。	・話の筋が理解できるように範読する。 ・「あれ、祐ちゃんはいないのかい。」「すぐに裕介に調子はどうかと尋ねた。」を押さえることで、キミばあちゃんが心の底から心配していることを理解させる。 ・「親にも心配や迷惑ばかりかけて心苦しい。」の裕介の言葉から、自分の病気のことだけでなく友達や家族への負担に苦悩している心情を押さえる。 ・広瀬淡窓の話から、この人物の生き様に共感させたい。 ・キミばあちゃんの話（広瀬淡窓の話）を受け、変わっていく裕介の心情について深く考えさせたい。 ・広瀬淡窓のエピソードについて再度確認する。（生き様、万善簿） 補助発問： 「万善簿の白黒はどんなときにつけていたのだろうか。」 ・生命を大切にしたときが白丸。 ・生命を粗末にしたときが黒丸。 ・いかに生きていくかが、生命の尊重につながることを考えさせる。 ・キミばあちゃんへの感謝のみの答えには、補助発問として「どういうことに感謝しているのか。」などと問い、生き方について考えが及ぶようにする。 ・寒椿が冬に花を咲かせ健気に生き抜くものだとして説明し、本時の内容と重ね合わせる。
終末	・本時の学習を振り返り、出会った価値を深める。	テーマ作文 「私の人生を『生き抜くために』」	・価値をさらに深めるテーマ作文・発表を行い、考えたことを振り返る。 ・生徒に発表をさせて価値への気づきや自覚をさらに深めたい。

評価の視点（例）

- 他者の意見や話し合い活動を通して、かけがえのない自他の生命を尊重することについて考えを深め、その考えや思いを発言したり記述したりしている。

中学
2～3年

教材名 **「仏の銀蔵」** (出典「中学校道徳読み物資料集」文部科学省)

規範意識

◆◆◆教材の概要◆◆◆

情け容赦ない借金の取り立てで、村人から怖れられ高利貸しの銀蔵は、ある日、カラスに証文をとられて取り立てができなくなる。証文がないことを理由に村人が借金を返さないため、二十両と引き替えに証文を取り戻そうとする。しかし、証文が返ってこないばかりでなく二十両も失い、商いができなくなった銀蔵は生活苦に陥る。しばらくすると、不思議なことに、村人達は証文がないにもかかわらず借金を返し始める。「貧しいが盗人にはなりたくねえ。」「お天道様が見てござる。」との村人達の言葉に、銀蔵は「そうか、お天道様か。」と気付くのであった。

◆◆◆教材の活用◆◆◆

高利貸しという仕事の是非に流れないように注意して授業を展開したい。また、銀蔵が法やきまり（証文）に従えばそれだけでよしという考えから、良心に従った村人の言動に触れ道徳的に変化した箇所に焦点をあて、内なる規範の存在に気付き、それに従って生きようとする生き方に共感させたい。村人の借金返済は、銀蔵への哀れみより、人の道に外れたくないという規範意識によるものであるということを押さえることが大切である。この実践を通して、自分の利益だけでなく、周りの人々の利益をも視野に入れ、自分の良心に従って判断し、行動しようとする生徒の意欲を喚起したい。

◆◆◆中心発問◆◆◆

「お天道様」とはなんだろう。

◆◆◆板書計画◆◆◆

お天道様が見てござる

- ・自分の良心・神様・もつ一人の自分
- ・銀蔵はその後どんな生き方をしようとしたかを含めて感想を……

仏の銀蔵

銀蔵……「鬼の銀蔵」怖がられている。
金貸し・厳しい取り立て。
村人達…生活が苦しい。

証文なしでは取立ができない。

不思議な手紙

なぜ、二十両を払ってまでも証文を取り戻そうと思ったのだろう。

証文さえあれば厳しく取り立てできる。
ごまかそうとした村人達を見返したい。

二十両も証文も戻らない。

さすがに何も言えず、ガックリ肩を落とした銀蔵はどんな思いだっただろう。

証拠がないから仕方がない。
これからどうしたらいいだろう。

村人は、何を見られていると思ったのだろう。

自分達のせいで銀蔵を苦しめていること。
借りたお金を返さず盗人と同じことをしていること。
うそをついてごまかしていること。

「そうか、お天道様か」とは、何を見られていると思うのだろう。

証文を盾に厳しい取立をしていたこと。
村人の生活を考えず、自分のことばかり考えていたこと。
村人を苦しめていた自分の日頃の行い。

お天道様とは何だろう。

カラスが証文を持っていく

◆◆◆道徳的価値「内なる規範（良心）」について◆◆◆

法やきまりは、社会生活に秩序を与え、摩擦を最小限にするために人間の知恵が生み出したものである。社会の秩序と規律を守ることにより、個人の自由が保障されるということを理解することは大切である。中学生になると、社会の仕組みも程度理解できるようになり、法やきまりの意義を理解できるようになってくる。しかし一方で、法やきまりに従えばそれだけでよしと考えたり、自分たちを拘束するものとして反発する生徒もいる。社会における自分の立場、自分の利害得失に固執せずに自分の内なる規範に従って、自ら考え、判断し、社会をよりよくするために行動しようとする気持ちが大切である。

◆◆◆学習指導案（本時のねらいと展開）◆◆◆

本時のねらい

証文なしでも借金を返済するようになった村人の良心に触れ、自らの内なる規範に気付いて道徳的に変化する銀蔵の姿を通して、法やきまりの意義を理解し、内なる規範（良心）に従って生きようとする道徳的実践意欲を高める。

本時の展開

	学習活動	発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	・教材について知る。	今日は昔のお話で、金貸しの銀蔵が主人公です。	・教材への方向付けをする。
展開	・教材を黙読する。		・話の筋が理解できるように範読する。
	・証文さえあれば、厳しく取り立ててもよいという銀蔵の考えを理解する。	なぜ20両払ってまでも証文を取り戻そうと思ったのだろう。 ・証文さえあれば厳しく取り立てられる。 ・証文がないからと返済しない村人を見返したいから。 ・貸したお金を絶対に取り返したいから。	・証文を盾に厳しく取り立てようという考えを押さえる。 補助発問：20両で商売は続けられるのになぜか。
	・証文も20両も失い取り立てできなくなった銀蔵の心情に共感する。	さすがに何も言えずがっくり肩を落とした銀蔵はどんな思いだっただろう。 ・もう取立ができない。 ・これからどうしたらいいだろう。	・証拠がなくては自分の金だと主張できないと理解しつつ、苦しい状況に陥ったことを押さえる。
	・村人の変化の理由を考える。	「お天道様が見てござる。」とは、村人は何を 見られていると思ったのだろう。 ・自分達が嘘をついてごまかしていること。 ・自分達のせいで、銀蔵を苦しい状況にしていること。 ・お金を返さないで、泥棒と同じことをしていること。 ・自分達が生活に困っていたとき、銀蔵のお金で生活をしたのに、銀蔵の生活を追い詰めたままにいること。 ・銀蔵の苦難を面白がり、喜んでいたこと。	・自分達の間違いを振り返り、内なる規範（良心）に従って行動しようとした過程を理解させる。
	・銀蔵が証文のあるなしに関わらず、人としての生き方についてどのように振り返ったかを考える。	「そうか、お天道様か。」と言った銀蔵は、お天道様に何を 見られていると思ったのだろう。 ・証文を盾に、厳しい取立をしたこと。 ・村人の生活を考えずに、自分のことばかり考えていたこと。 ・証文さえあれば何をしても良いという自分のひとりよがりな考えであったこと。	村人も銀蔵も「お天道様」の存在に気付き、生き方を変えようとしたことを押さえて発問する。
	・内なる規範（良心）について考える。	「お天道様」とは何だろう。 ・神様 ・良心 ・もう一人の自分	・抽象的な答えには補助発問などで、できるだけ具体的に考えを深めさせる。 (例) 神様とは何か。 ここでいう良心とは具体的にどんなことか？
終末	・考えをまとめ、感想を書く。	今日の授業で考えたことや感想を書きましょう。	・銀蔵がその後、どんな生き方をしようと思ったかについても考えさせる。

評価の視点（例）

- 他者の意見や話し合い活動を通して、自己の体験を振り返り、内なる規範（良心）に従って生きるということについて考えを深め、その考えや思いを発言したり記述したりしている。

中学
2～3年

教材名 「二通の手紙」 (出典「私たちの道徳」文部科学省)

きまりの意義

◆◆◆教材の概要◆◆◆

主人公の元さんは、動物園の規則を知っているが、幼い姉弟の思いに同情し、入園を許可してしまう。元さんの行為は、母親からは感謝されることになったが、規則を破って入場させたことから大騒ぎとなり、その結果懲戒処分を受けることになった。

姉弟の母から届いた感謝の手紙と動物園から渡された懲戒処分の通告書。元さんが手にした「二通の手紙」は社会における人間としての生き方について考える機会を与えてくれる。本教材は、心の葛藤を引き起こす内容であり、社会における法やきまりの意義について深く考えることのできる教材である。

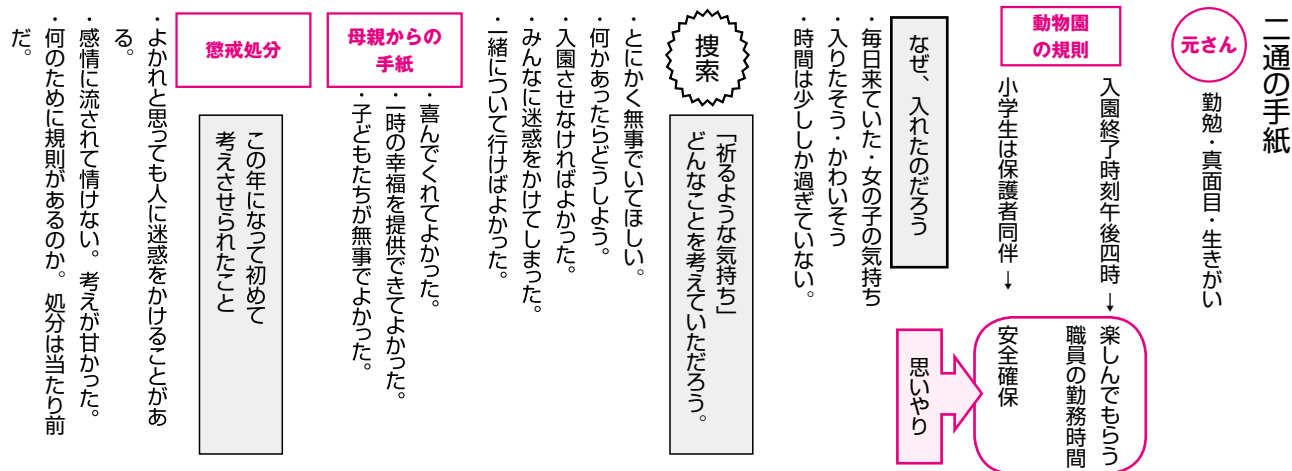
◆◆◆教材の活用◆◆◆

元さんの行為は、心情的には十分理解できるものではあるが、姉弟の生命に関わる問題として発展しかなないものである。姉弟を思いやった元さんの行為と母親からの感謝の手紙から、懲戒処分への反発や時には規則は破っても仕方がないものだという気持ちが湧いてくることもある。しかし、それらは、姉弟が無事であったからである。一見、思いやりと規則の尊重との道徳的価値が対立しているようであるが、そもそも動物園の規則が何のためにあるのかを考えることで、対立ではなく元さんの思いやりに問題があることに気付くであろう。動物園の規則の理由、祈りながら待つ元さんの思い、母親の手紙に込められた姉弟への愛情に気付かせることで、法やきまりの意義について深く考えさせたい。

◆◆◆中心発問◆◆◆

元さんが「この年になって初めて考えさせられたこと」とはどんなことだろう。

◆◆◆板書計画◆◆◆



◆◆◆道徳的価値「遵法精神」について◆◆◆

遵法精神は、公德心によって支えられている。公德心とは、社会生活の中で守るべき正しい道としての公德を大切にする心である。また、他人の権利を尊重し、自分の権利を正しく主張するとは、お互いの権利の主張が調和し両立できるようにすることである。自らに課せられた義務を果たすことが、結果として規律ある安定した社会の実現に貢献することになる。義務とは、ここでは人に課せられる法的拘束であり、自分の好き嫌いに関わりなくすべきことである。指導に当たっては、法やきまりは自分自身や他者の生活や権利を守るためにあり、それを遵守することの大切さについての自覚を促すことが求められる。また、「遵法精神」には、「自分を裏切らない」という自尊心と、目の前の相手の心情に思いを巡らせ、外見からうかがい知れない人の心情を想像できる思いやりが関わっていることに気付かせることが大切である。

◆◆◆学習指導案（本時のねらいと展開）◆◆◆

本時のねらい

二通の手紙を受け取り、元さんが「考えさせられたこと」を考えることを通して、規則の意義を理解し、自ら規則を守ろうとする道徳的判断力を育てる。

本時の展開

	学習活動	発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	・ 本時の学習に関心をもつ。	身の回りのルールやきまりにはどんなものがあるだろう。 ・ 校則・交通ルール・憲法等	・ 身近なルールやきまりを思い浮かべさせ、本時の学習に関心をもたせる。
	・ 教材を読み、登場人物とあらすじを確認する。 ・ 動物園の規則の確認と元さんが姉弟を入選させた理由を考える。 ・ 姉弟の安否連絡を待っている時の元さんの気持ちを考える。	なぜ元さんは、規則を破ってまで姉弟を入園させたのだろう。 ・ 毎日来ていたことを知っているから。 ・ 姉の思う気持ちがわかったから。 ・ 毎日毎日入りたそうにしていたから。 ・ せっかく来たのにかわいそうだから。 ・ 時間は少ししか過ぎていなかったから。 連絡を待っていた元さんは、どのようなことを考えていただろう。 ・ とにかく無事に見つかってほしい。 ・ 入園させなければよかった。 ・ 何かあったら取り返しがつかない。 ・ みんなに迷惑をかけてしまった。 ・ 一緒についていけばよかった。	・ 元さんの人柄を押さえる。 ・ 元さんが破った園の規則を確認する。 ・ 「祈るような気持ち」で待っていたことを押さえて発問する。 ・ 元さんの行為の問題点に気づかせる。 補助発問： 「入れなければよかった」 →そう思う理由を問う。 「迷惑」→具体的にどんなことかを問う。 ・ 発見された場所は雑木林の中の小さな池で、一歩間違えれば、命に関わる問題になっていたことを押さえる。
	・ 母親の手紙を読んだ元さんの気持ちを考える	元さんはお母さんからの手紙を読んでどんなことを考えただろう。 ・ 親子に幸せな一時を提供できてよかった。 ・ 子どもたちが無事でよかった。 ・ こんなに大切な子どもたちに何事もなくよかった。	・ 感謝の気持ちは嬉しいが、無事だったからこそその感謝であることを押さえる。
	・ 二通の手紙から元さんが学んだことを考える。	元さんが「この年になって初めて考えさせられたこと」とはどんなことだろう。 ・ 感情に流されてしまった自分が情けない。 ・ 結果オーライではない。 ・ よかれと思ってしたことでも、多くの人に迷惑を掛けてしまうことがある。 ・ 何のためにこのような規則があるのかを改めて考えさせられ、処分に納得できた。 ・ 自分の考えが甘かった。	・ 規則の意義を再確認した元さんの思いを考えさせる。 ・ 元さんが破ってしまった規則は何のためにあるのかを再度確認し、規則の中にある思いやりに気づかせる。 →入園時刻・・・入園者に十分楽しんでもらう時間の確保。職員の勤務時間。保護者同伴・・・子どもの安全 ・ 規則は時には破ってもよいという意見や園の処分が納得できないといった意見に偏った場合は、「佐々木さんが、若い女の子たちの入園を断ったのはなぜか」を考えさせ、園の処分に納得できなかった佐々木さんが元さんから学んだことを捉えさせる。
終末	・ 本時の学習を通して考えたことをまとめる。	この時間に感じたこと、考えたことをまとめよう。	・ 意見を交流し、本時の学びをさらに深めさせる。

評価の視点（例）

- 話し合い活動や振り返りの中で、規則の意義について多面的・多角的に考えようとする発言や記述がある。

中学
2～3年

教材名 「海と空—樫野の人々—」 (出典「私たちの道徳」文部科学省)

国際理解

◆◆◆教材の概要◆◆◆

1985年のイラン・イラク戦争の渦中、テヘランからの脱出の手段を失っていた邦人たちが、トルコ政府から提供された「救いの翼」によって無事に帰国できたという話に基づき構成されている。脱出の当事者である主人公は、帰国後、トルコ政府の厚意の背景に、1890年のトルコ船籍エルトゥールル号遭難の際の和歌山県串本の人々の献身的行為があったことを知り、百年の時を経てもなお、その恩恵に報いようとしたトルコの人々の温情に胸を打たれる。このことから、国と国との関わり、ひいては国際的規模の相互扶助の在り方に思いを馳せることができる。世界の平和と人類の幸福に貢献することが大切であることを感じ、真の国際人としての生き方を考えさせることのできる教材である。

◆◆◆教材の活用◆◆◆

国際理解の理想の実現のために基本となることは、どこの国の人々も同じ人間として尊重し合い、差別や偏見をもたずに公正、公平に接することである。

トルコ航空機に救出された主人公は、トルコ政府の決断になかなか納得できなかった。しかし、100年前のエルトゥールル号遭難の際の樫野の人々が示した献身的行為を知ることによって、国際的規模の相互扶助を実感する。樫野の人々の思いとトルコ航空機の邦人救出に通底する精神の象徴的光景としての「海と空」が一つになった水平線に焦点を当て、世界の中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立って同じ人間として尊重しあおうとする道徳的心情を育みたい。

◆◆◆中心発問◆◆◆

海と空が水平線で一つになるのを見つめながら、私はどんなことを思っていただろう。

◆◆◆板書計画◆◆◆



・人間としては一つの地球人
・他国の問題も自分とつながっている。

一つになったもの

・樫野の人たちの行為が、今でもトルコの人々の心に受け継がれている。

「海と空が水平線で一つになる」
どんなことを思っていただろう

・同じ人間として、ただ助けたい。
・非常食を出すのは当たり前のこと。
・トルコの人々も自分たちと同じ人間。

どんな思いで残らず差し出したのだろう

樫野の人
暴風雨の中救助
ありつたけの食料を提供

なぜ納得出来なかったのだろう
・エルトゥールル号の遭難は昔の話
・自分たちの命が危険にさらされているのに…

和歌山県樫野地区

エルトゥールル号遭難（一八九〇年）

危機髪・脱出
↑トルコ政府が救援機

イラン・イラク戦争（一九八五年）

海と空

海

空

◆◆◆道徳的価値「国際理解」について◆◆◆

グローバル化が進展する中で、様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重し合いながら生きることや、科学技術の発展や社会・経済の変化の中で、人間の幸福と社会の発展の調和的な実現を図ることが一層重要な課題となっている。私たちは、地球規模の相互依存関係の中で生きており、我が国が、国際的な関わりを持つことなく孤立して存在することはできない。したがって、日本のことだけを考えるのではなく、広く世界の情勢に目を向けつつ、日本人としての自覚をしっかりとって国際理解に努めることが必要である。「他国を尊重」とは、他の地域や国々はそれぞれの文化や伝統、歴史を持っており、地域や国々の在り方、地域や国々がもっている理想等を、違いは違いとして理解し、それを尊重していくことを意味している。日常生活の中で社会連帯の自覚に基づき、あらゆる時と場所において協働の場を実現していく努力こそ、平和で民主的な国家及び社会を実現する根本であり、国際的視野に立って世界の平和に貢献することにつながる。人間の存在や価値について理解を深め、よりよい社会が形成されるよう人類の発展に貢献する意欲を高めることが求められる。「世界の中の日本人としての自覚」には、他国の人々や文化を尊重し、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に貢献し、世界の人々から信頼される人間の育成を目指すという意味が込められている。

◆◆◆学習指導案（本時のねらいと展開）◆◆◆

本時のねらい

長年主人公が抱いていた疑問を考えることを通して、世界の中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立って同じ人間として尊重し合おうとする道徳的心情を育む。

本時の展開

	学習活動	発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	・教材について意識を高める。	トルコについて知っていることはありますか。 ・イスラム教・トルコアイス・国旗・アジアとヨーロッパにまたがる国	・トルコの位置が分かる地図や「エルトゥールル号遭難事故」の関係写真等を提示し興味を持たせる。 ・親日的であることやエルトゥールル号について出ない場合、こちらから提示し時間を掛けずに短時間で展開に入る。
	・教材を読む ・私が疑問を持った理由を考える。 ・樫野の人々が、どんな思いでトルコの人々を助けたのかを考える。 ・海と空が水平線で一つになるのを見つめながら、私が考えていたことを考える。	私はなぜ、トルコ政府が日本人を救出したことが納得できなかったのだろう。 ・エルトゥールル号の遭難は、随分昔の出来事なので今でもそれが影響しているとは思えない。 ・100年も前のことで、助けようと思えるのだろうか。 ・自分たちの命だって危険にさらされるのに、なぜそんなことができるのだろう。 どんな思いで樫野の人たちは、飼っていたニワトリやサツマイモなどを残らず差し出したのだろう。 ・同じ人間として助けたい。 ・非常食のニワトリを出すのは、当たり前。 ・トルコの人も自分たちと同じ人間。 海と空が水平線で一つになるのを見つめながら、私はどんなことを思っていただろう。 ・樫野の人たちが、トルコの人々を助けたことが、自分がここにいるということにつながっているのだ。 ・樫野の人たちの行為が、今でも、トルコの人々の心に受け継がれてきたのだ。	・教材を範読する。 ・日本政府が素早い決定ができない中、トルコ政府は自国の人がいるにもかかわらず、まず216名の日本人を助けたことを補足する。 ・樫野の人々は、遭難したトルコの人々を、同じ人間として、ただ助けたいという思いであったことに気付かせる。 ・自分が助かったことが、日本人の献身的な行為に感謝したトルコ人の思いが100年たった今でも続いているということに気付くようにする。 補助発問： 「『1 つになったもの』って何だろう。」 ・国境があっても、人間としては同じ一つの地球人である。 ・今、他国で起こっている様々な問題も、自分とつながっている。他人事ではない。 などの、本時のねらいに迫る考えを引き出したい。
終末	・今日の学習で感じたこと考えたことを振り返る。	今日の授業で感じたこと、考えたことをまとめよう。	・本時の学習を通して考えたことを基に、世界と自分のつながりについて考えることを含めて感想を書くように促す。

評価の視点（例）

- 話し合い活動や振り返りの中で、国は違っても同じ人間として尊重し合おうとするものの大切さに気付く発言や記述がある。

高等学校における道德教育の展開

Q 高等学校における道德教育の考え方とは何ですか？

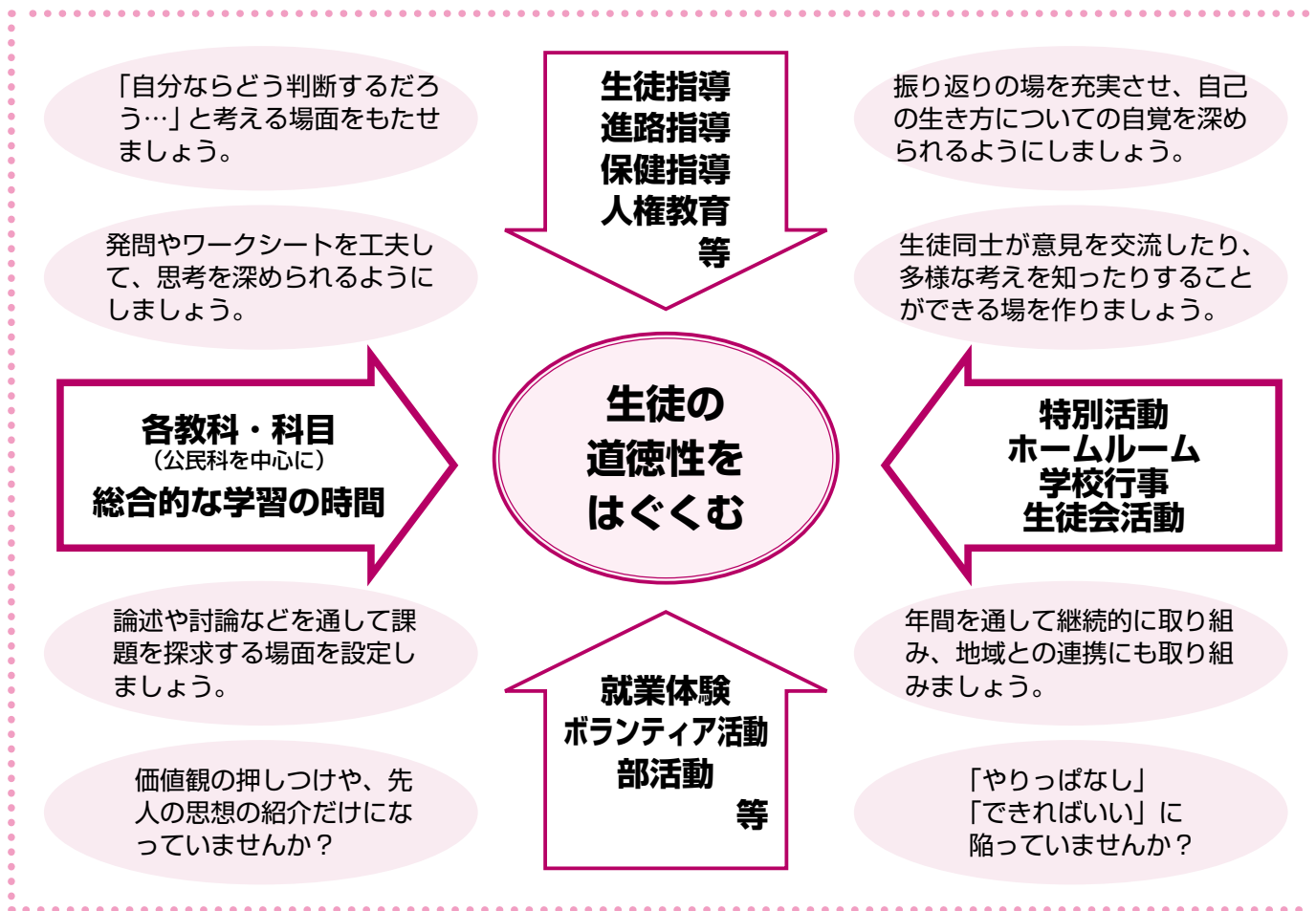
A 人間としての在り方生き方に関する教育を、学校の教育活動全体を通じて行います。

高等学校においては、道德の時間は設けられていませんが、公民科やホームルーム活動を中心に各教科・科目の特質に応じ、学校の教育活動全体を通じて、生徒が人間としての在り方生き方を主体的に探求し豊かな自己形成ができるよう、適切な指導を行います。

小・中学校における道德教育も踏まえつつ、生徒の発達の段階にふさわしい高等学校における道德教育を行うことが大切です。

Q では、どうやって高等学校での道德教育を進めればよいでしょう？

A 様々な体験や思索の機会を通して、生徒自らが考え、自覚を深めて自己実現に資するように指導を工夫します。



Q 従来の教育活動をどのように工夫・改善すればよいですか？

A 今までの教育活動を、道德教育の視点から見直してみましょう。

- 1 学校の教育目標や育てたい生徒像から、自校の道德教育の重点目標を明確にします。
- 2 各教科、分掌等が連携し、重点目標を意識した道德教育の全体計画を作成します。
- 3 教職員全員でその内容を共有し、道德教育の重点目標を意識した教育活動を、組織的・計画的に実践します。

Q 高等学校における道德教育はどのように実践すれば良いですか？

A 学校の教育活動全体を通じて、各教科・科目、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて実施します。

まず、日常の様々な教育活動の場面において、人間としての在り方生き方に関する教育を意識的・意図的に実施するという意識をもつことが大切です。従来の教育活動でも実践してきたことを、学校の全体計画に沿って、関連する道徳的価値を明確にした上で、日常の教育活動の一場面に組織的・計画的に組み込んでいくことが求められます。

高等学校における道德教育は、学校の教育活動全体を通じて、各教科・科目、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて実施するものですが、特に公民科の「現代社会」と「倫理」、特別活動は中核的な指導の場面として重視されています。この他の各教科・科目においても、各教科・科目の目標や内容と「人間としての在り方生き方についての自覚を深める」ことの関連が見られます。

そこで、ここでは、授業の一場面での「人間としての在り方生き方について考える」事例と、特別活動等での実践例を紹介します。なお、学校の教育活動全体を通じて行う道德教育についての考え方は、「第1章」の(6)道德教育はいつどこで行えばよいのだろう」(P7)を参考にしてください。

公民科

◇教科の目標◇

「広い視野に立って、現代の社会について主体的に考察させ、理解を深めさせるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を育て、平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う。」

＜「現代社会」と道德教育との関連＞

○現代社会の諸課題を取り上げて考察させ、理解を深めさせるとともに、議論などを通して自分の考えをまとめたり、説明・論述するなど課題を探究させる学習を行い、人間としての在り方生き方についての学習の充実を図る。

＜実践例＞

科目・題材	現代社会 「地球温暖化問題への取組」
内 容	地球環境問題の中でも特に我々の産業活動との関連が深く、深刻な影響が懸念されているのが温暖化である。これまで気候変動枠組条約の締約国会議で二酸化炭素の削減目標が定められ、国際社会は温暖化対策の第一歩を歩み出した。 しかし、発展途上国に削減義務はなく、アメリカが条約から離脱するなど世界的な取組が大きく進展しにくい現状がある。また、有限である資源の有効活用・省資源・省エネルギーをどのように推進するか、いかに循環型社会を形成していくかも現在の私たちには求められており、未来の人々に安心できる環境を残していく責任がある。そのために、世界の国々が自国の利害を越えて協力することが不可欠である。そして、一人一人が地球温暖化問題を身近な問題と認識し、できることを主体的に実践することが求められている。

（在り方生き方に関する教育の展開）

学習を進める中で、地球温暖化をグローバルな視点で考えさせる。また、今の日本の豊かな生活の維持や更なる豊かさの追求と、地球温暖化問題とのつながりも含めて、「私たちはどうすべきか」「自分に何ができるか」を考えさせる。

（関連する道徳的価値）

○環境保全 ○より良い社会の実現 ○国際的視野

（考えさせる発問の例）

- 日常生活において、地球温暖化防止のために自分にできることは何でしょう。
- 将来の生き方・働き方などと環境問題との関連を考えてみましょう。
- 他国で暮らしている立場になって、これからの地球環境について考えてみましょう。

国語科

◇教科の目標◇

「国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。」

<道徳教育との関連>

- 国語力や国語科の活動は道徳教育を進めていく上での基盤となり、道徳的心情や道徳的判断力を養う基本となる。
- 伝統と文化を尊重し、我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図る態度を育成することにつながる。

<実践例>

科目・題材	現代文 「魯迅 藤野先生」
内 容	中国からの留学生である「私」は仙台で医学を学び、そこで解剖学の藤野先生から個人的なノートへの添削など親切な指導を受けて感激する。しかし、日本人学生から不愉快な思いを受けさせられた「私」は医学の勉強をやめて仙台を去ることになった。別れに際して藤野先生は「惜別」と書かれた写真を「私」に与えた。その写真と文字は、その後の「私」に強い勇気を与え続け、藤野先生への崇敬の思いは今も続いている。

(在り方生き方に関する教育の展開)

この小説を通じて、人間として誠実に他者に向かい合っていくことについて思考を深めさせる。さらに、祖国を異にする人間同士が互いの理解を真に深めていく方途について考えさせる。

(関連する道徳的価値)

- 国際理解、異文化の尊重
- 思いやり、共感
- 自他の尊重、多様性の尊重
- 自主・自律、誠実

(考えさせる発問の例)

- あなたが藤野先生だったら、どのように考え、どうしたでしょうか。
- なぜ日本人学生は「私」に対して不愉快な行動をとったのでしょうか。あなたなら、普段から自分や自分の周りに対してどのように考え、行動していきたいと思いますか。
- 藤野先生と「私」のように国境を越えて互いに理解を深め合うために、あなたにできることはどんなことだと思いますか。

数学科

◇教科の目標◇

「数学的活動を通して、数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を高め、創造性の基礎を培うとともに、数学のよさを認識し、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を育てる。」

<道徳教育との関連>

- 事象を数学的に考察し筋道を立てて考え、表現する能力を高めることは、道徳的判断力の育成に資する。
- 数学を積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を育てることは、工夫して生活や学習をしようとする態度を育てることに資する。

<実践例>

科目・題材	数学Ⅰ 「数と集合」
内 容	例えば、命題「 $x > 2$ ならば $x > 0$ である。」について、数の集合 $A = \{x \mid x > 2\}$ 、 $B = \{x \mid x > 0\}$ を考え、 $A \subset B$ であることを数直線を利用して理解させ、命題の真偽を扱う。

(在り方生き方に関する教育の展開)

この学習を通して、論理的に考える方法を身につけることにより、主体的に判断する力を養う。また、ものごとを多面的・統合的にみることや、与えられた条件や情報を総合的に判断して、答えを吟味することの必要性に気づかせる。

(関連する道徳的価値)

- 公正・公平
- 真理の希求
- よりよい社会の実現

(考えさせる発問の例)

- なぜ真と考えましたか？ なぜ偽と考えましたか？ その理由を述べられますか。
- 解を、すべての条件や情報を考えに入れて判断できていますか。

保健体育科

◇教科の目標◇

「心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的、計画的な実践を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。」

<道德教育との関連>

- 公正、協力、責任、参画などに対する態度の育成に資する。
- 粘り強くやり遂げる、ルールを守る、集団に参加し協力する、といった態度が養われる。
- 健康の大切さを知り、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善することにつながる。

<実践例>

科目・題材	体育 「体づくり運動・体力を高める運動」
内 容	ストレッチの方法や実施の際のポイントを学び、自己の体力に応じたストレッチメニューを選び、実践する。また、総合的な体力を高めるための運動について、目的に応じて負荷の強度や量、運動の構成を考え、実践する。

(在り方生き方に関する教育の展開)

これらの学習を通して、望ましい生活習慣の在り方や、体力を高めるための運動の大切さを考えさせる。

また、体力差に配慮しながら協働して活動する方法について考えさせることを通して、他者と協力し合うことや、集団の中の自分の在り方について考えを深めさせる。

(関連する道德的価値)

- 望ましい生活習慣の確立
- 向上心
- 友情、励まし合い、高め合い、思いやり
- 集団の一員としての役割、責任の自覚

(考えさせる発問の例)

- 日常生活に、これらのストレッチや体力を高める運動をとり入れることで、あなたの生活はどのように変わるとおもいますか。
- 体力や生活習慣が異なるみなさんが、それぞれ自分の力を発揮して頑張ることができる雰囲気づくりをするためには、どのようにしたらよいでしょうか。

芸術科

◇教科の目標◇

「芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。」

<道德教育との関連>

- 芸術を愛好する心情を育て、感性を高めることは、美しいものや崇高なものを尊重することにつながる。
- 芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養うことは道德性の基盤の育成に資する。

<実践例>

科目・題材	音楽Ⅰ 「ベートーベンの生涯」
内 容	ベートーベンが晩年だんだんと聴力を失っていったことに触れ、音楽家にとって命ともいえる聴力を失うということはどういうことなのかを考えさせる。また、その状況でも作曲を続けることができた精神力の強さや、音楽にかける思いに迫る。

(在り方生き方に関する教育の展開)

この学習を通して、逆境に負けず自己の生き方を貫き通す強い意志や芸術を愛する心について、考えを深めさせる。

(関連する道德的価値)

- 希望、勇気、強い意志、努力
- 向上心
- 美しいものに感動する豊かな心

(考えさせる発問の例)

- 音楽家として必要な聴力を失っていく中でも作曲を続けることができたのはなぜだと思いますか。

外国語科

◇教科の目標◇

「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。」

<道徳教育との関連>

○世界の中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献することにつながる。

<実践例>

科目・題材	コミュニケーション英語Ⅰ 「Twice Bombed, Twice Survived」(ELEMENT English Communication Lesson 4)
内 容	2009年、アメリカのオバマ大統領はブラハの演説で、米国は核兵器のない世界の平和を追求していくという決意を述べた。「私たちは主張しなければいけません、『イエス・ウィー・キャン』と。」同年、彼はノーベル平和賞を受賞した。 山口彊（つとむ）さんはこの演説を聞いてオバマ大統領に手紙を送った。彼は広島と長崎の両市で被爆した「二重被爆者」であり、著書、短歌、スピーチなどを通して反核を訴え続けてきた。オバマ大統領の決意に感動し、「自分もまた、残りの人生をかけて核兵器の廃止を訴える。」との決意を綴ったのである。

(在り方生き方に関する教育の展開)

体験者の思いを読むことで、平和な世界とはどのようなものかを気付かせるきっかけとする。また、平和な世界を創るために「自分自身ができること」について考えを深めさせる。

(関連する道徳的価値)

- 人類愛、平和 ○正義 ○理想の実現
- 生命の尊重

(考えさせる発問の例)

- 平和な世界とはどのようなものだと思いますか。
- 核兵器や、戦争とはどのようなものだと思いますか。
- 人はなぜ、ときに国籍、人種、宗教の違いが原因で憎しみ合うのだと思いますか。
- 平和な世界の実現のために、あなたにはどのようなことができると思いますか。

情報科

◇教科の目標◇

「情報及び情報技術を活用するための知識と技能を習得させ、情報に関する科学的な見方や考え方を養うとともに、社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解させ、社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育てる。」

<道徳教育との関連>

○情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度を身に付けさせ、情報社会に参画する態度を育成することにつながる。

<実践例>

科目・題材	社会と情報 「インターネット上の個人の責任」
内 容	インターネット上の電子掲示板には、世界中の誰でもが自由に書き込むことができ、読むことができるという特徴がある。これは、個人の発言の場所が増えるという長所ではあるが、一方で、この特徴を悪用し、電子掲示板上で他人を特定できる形で誹謗中傷する者も後を絶たず、社会問題になっている。 また、インターネット上で社会的ネットワークを構築するサービスである SNS でのトラブルも目立ってきている。特定のメンバーであるという安心感から、現実世界と同じ気軽さでメッセージのやり取りが行われ、誹謗中傷や個人情報の流出などの被害も非常に大きいものである。

(在り方生き方に関する教育の展開)

これらの学習を通して、インターネット上の個人の責任、インターネット使用上のマナーや関連法等の遵守について考えさせる。また、人権尊重や他者への配慮について、思考を深めさせる。

(関連する道徳的価値)

- 礼儀、時と場に応じた適切な言動
- 思いやり ○人格の尊重 ○規範意識

(考えさせる発問の例)

- なぜ、電子掲示板や SNS では、他人を誹謗中傷するような書き込みをする人が出てくるのでしょうか。
- なぜインターネット上に気軽に個人情報を掲載すると問題があるのでしょうか。
- インターネット上のサイトへの書き込み方として、あなたが気をつけたいのはどのようなことですか。

特別活動

◇特別活動の目標◇

「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。」

＜指導に当たっての配慮＞

○社会の一員としての自己の生き方を探求するなど、人間としての在り方生き方についての指導がホームルーム活動を中心として、特別活動の全体を通じて行われるようにする。またその際、他の教科、特に公民科や総合的な学習の時間との関連を図るようにする。

＜実践例＞

活動場面・題材	LHR 「文化祭の事後指導」
内 容	文化祭終了後、ホームルームの取組について、アンケート形式の質問に答えさせることで、自分自身及びホームルームの活動状況を振り返らせる。さらに、アンケートの結果について班ごとに話し合いをさせた後、ホームルーム全体で意見交流を行い、今後のホームルーム活動の在り方について考えを深めさせる。 *アンケート ○あなたはホームルームの取組に積極的に参加できましたか。 ○この取り組みを通じて、あなた自身の課題は何でしたか。 ○あなたは今後のホームルーム活動にどのように関わろうと考えますか。 ○ホームルーム全体の取組状況について、成果と課題をあげてください。 *班討議 ○ホームルームの取組状況について、成果と課題を整理しよう。 ○ホームルーム活動を充実させるための具体的な方策を検討しよう。

（関連する道德的価値）

- 集団生活の向上
- 学級の一員としての自覚
- 信頼、高め合い、協力
- 自主・自律、責任

（指導のポイント）

- 行動を振り返るとき、そのときどんな気持ちだったのか、なぜそう思ったのか等、自己を見つめることができるようにする。
- 集団や社会の一員として、これからの自己の在り方生き方について、思考を深められるようにする。

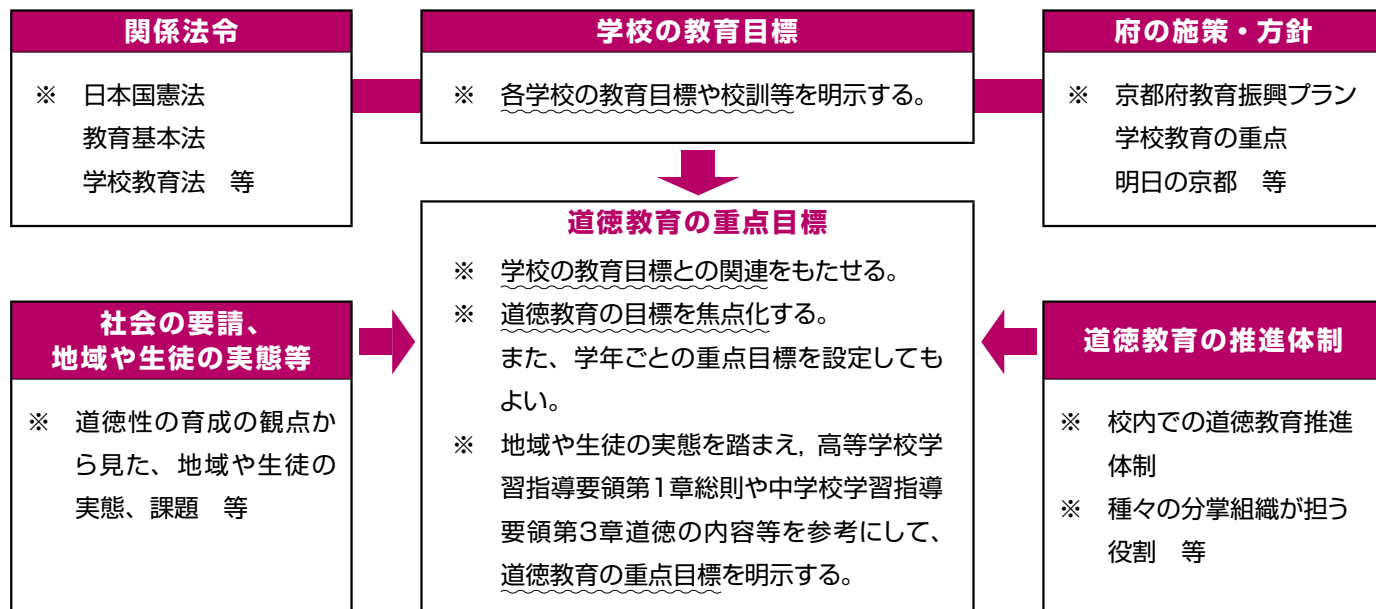
Q 道德教育の全体計画はどのように作成しますか？

A 学校の教育目標や育てたい生徒像から、道德教育の目標を焦点化し、学校の教育活動全体を見渡して作成します。

道德教育全体計画

(平成〇〇年度入学生)

京都府立〇〇高等学校 [〇〇分校・〇〇課程]



各教科・科目、総合的な学習の時間、特別活動における関連

- ※ 高等学校学習指導要領解説総則編や各教科等ごとの解説中の道德教育に関する記述などを参考にしつつ、中核的な指導場面である公民科の「現代社会」及び「倫理」、特別活動の〔ホームルーム活動〕を始めとして、各教科、総合的な学習の時間、特別活動における道德性の育成にかかわる内容を記述する。

各教科の授業を通して、どのように「在り方生き方に関する教育」を行うか、具体的に記述する。

(記入例)

- 国語：文学作品の読解や表現活動を通して…
- 地歴：日本や世界の歴史・地理についての…
- 公民：社会の在り方や人間の在り方を考察する…
- …
- 家庭：主体的に生活を創造する学習を通して…
- 情報：情報社会で適正な活動を行うための考察を通して…
- 農業：生物の育成や、農業の社会的役割を学ぶことを通して…
- 産業社会と人間：産業社会における自己の将来を考え…
- 総合的な学習の時間：学び方やものの見方を養う活動を通して… 等

特別活動等を通して、どのように「在り方生き方に関する教育」を行うか、具体的に記述する。

(記入例)

- 学級活動：ホームルーム活動を通して望ましい人間関係を確立し…
- 生徒会活動：自主的・自発的な活動を通して…
- 学校行事：文化祭、体育祭などの行事への取組を通して… 等

他に、就業体験、ボランティア活動のような、各学校で重点的に取り組んでいる活動などについても記述する。

生徒指導における関連、学校の環境の充実

- ※ 生徒指導等生活全般における関連、教育環境にかかわる内容 等

家庭・地域との連携、異校種との連携

- ※ 保護者や地域の人々の積極的な参加を得る方策
- ※ 家庭・地域との連携、近隣の中学校等の異校種との連携 等

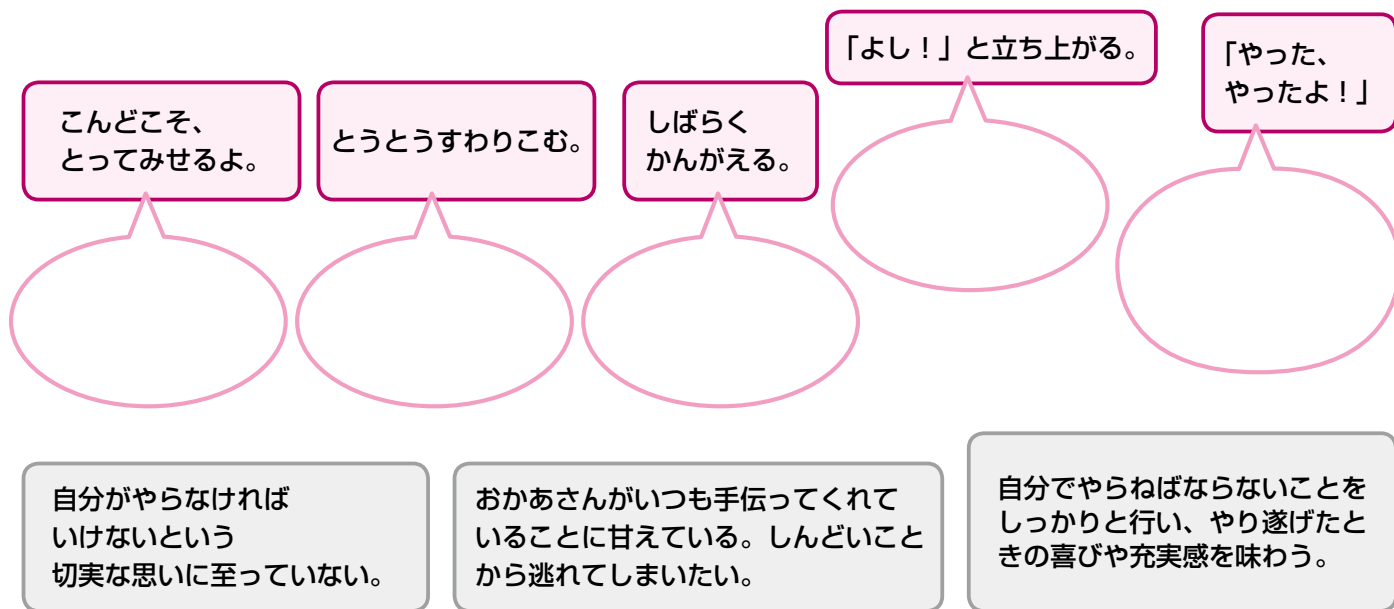


教材分析図集 (「ヒキガエルとロバ」の分析図は、16、17 頁に掲載しています。)

小学校
低学年

教材名 「シロクマのクウ」 (出典「小学校道徳読み物資料集」文部科学省)

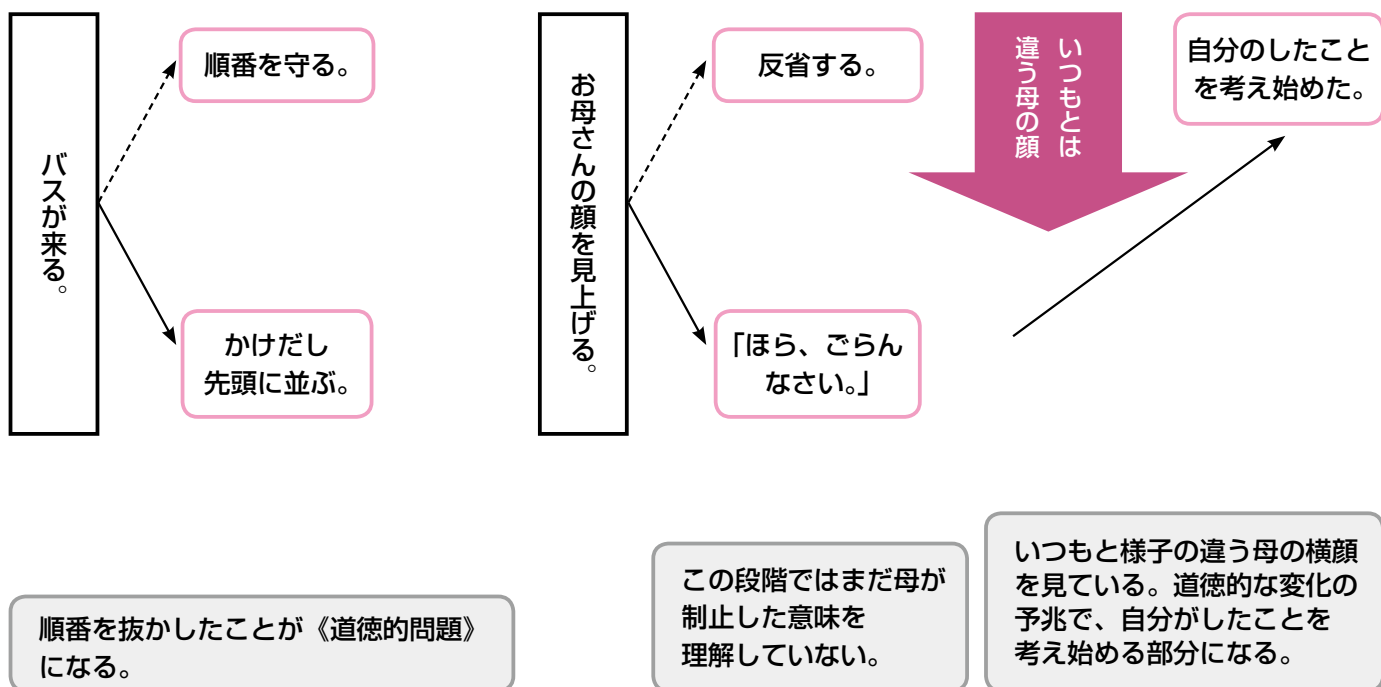
努力と強い意志



小学校
中学年

教材名 「雨のバス停留所で」 (出典「わたしたちの道徳」文部科学省)

公德心



小学校
高学年

教材名 「黄熱病とのたたかい」 (出典「私たちの道徳」文部科学省)

感謝

療養中幼い頃からのことを
思い出す。

多くの人々に
支えられてきた。
期待に応えられて
いるだろうか。
自分が情けない。

黄熱病の研究グループの
一員に推薦された。
「所長、是非行かせてください。」

・ 所長、ぜひ
行かせてください。
・ 周りの期待に
応えたい。

黄熱病にかかった病床で
「みなさんのおかげです。」

人々の支えに感謝すると同時に、
他人の善意に甘えきっている
自分を振り返る。

新たな研究への情熱と、
周りの期待に応えたいという思い
＝感謝の気持ちへのお返しを
したいという決意をする。

好きな研究はもとより、
それを支えてくれた人たちへやっ
とお返しができた達成感を
感じられた。

小学校
高学年

教材名 「最後のおくり物」 (出典「私たちの道徳」文部科学省)

思いやり

窓の下で
熱心にメモを取る。いっそう練習に
力が入った。思わず
唇をかむ。ジョルジュ
じいさんの
思いやりきっぱりと
「ぼくが付き
添います。」

最後のおくり物

何かを決意した
ように遠くを
見つめる。

自分なりに努力し、
温かく見守られる
ロベエヌの様子を
押さえる。

学費を手にして
練習に励む
ロベエヌの気持ちを
押さえさせる。

ジョルジュの行動と自分の
身勝手な考えを重ねる。
ロベエヌの気持ちを考える。
手紙を読み返すロベエヌの
姿から、ジョルジュのどんな
思いを受け取ったのか
考えさせる。

ジョルジュの思いを知り、
《思いやりの心》をかみし
めるロベエヌの気持ちを
考えさせる。

中学校

教材名 「町内会デビュー」 (出典「中学校道德読み物資料集」文部科学省)

自主・自律

ふと周りを見る
(足元が悪くないと
ころで、足を取ら
れそうになる人が
いる。)

ええっ、どうして
僕なの？

まだ中学生だよ。
大人と一緒になんて
嫌だ。居場所がない。

よし！

これは重労働だ。
お年寄りの仕事
ではない。

くすぐったかった。
けれど、何だか大人に
なったような気持ちが
した。

いつも親任せにしている作
業に参加することを素直に
受け止められない明。

自ら進んで荷物を運ば
うとする気持ちが生ま
れる。

自らの責任によって
生きる自信と誇りが
芽生える。

中学校

教材名 「背番号10」 (出典「中学校道德読み物資料集」文部科学省)

感謝

父の
一喝

キャプテンなんか
やってられない。

自分にできる
ことをした。

さらに大きな拍手

深々と頭を下げる。

人々の支えに気付く。

自分への苛立ちと
周囲への不満。

周囲に目が向けられる
ようになる。

周囲に支えられていることには気付いていない。

中学校

教材名 「キミばあちゃんの椿」 (出典「中学校道徳読み物資料集」文部科学省)

生命の尊重

すぐに具合が悪くなっちゃう。

生きていても仕方がない。

病気を苦にしている
祐介。同じように病弱であった
広瀬淡窓の悩みとそれを
克服した生き方

キミばあちゃんの話

甘かったんだね。
手をぐっと握りしめた。「生き切る」ことに対しての
意識が高まる。中学
2～3年

教材名 「仏の銀蔵」 (出典「中学校道徳読み物資料集」文部科学省)

規範意識

村人達の良心

お天道様が
見てござる。20両と引き替えに
証文を取り戻そうと
する。そうか、
お天道様か。ほそぼそと
商いをする。外的規範ではなく
内なる基本に従って
生きようとする意欲が
高まる。内なる規範に従った
生き方への変化。証文さえあれば厳しく
取り立てて当然という、
村人の生活を顧みない
銀蔵の考え。道徳的価値である
内なる規範に従って
行動する村人。

Handwriting practice lines consisting of 25 horizontal dashed lines.

Handwriting practice lines consisting of 20 horizontal dashed lines.

道徳教育の進め方 京都式ハンドブック編集委員

委員長

山口 満	筑波大学名誉教授・関西外国語大学教授 京都府総合教育センター顧問
------	-------------------------------------

副委員長

横山 利弘	前関西学院大学教授
-------	-----------

監修委員

藤永 芳純	大阪教育大学名誉教授
谷田 増幸	兵庫教育大学大学院教授

委員

片山 敏哉	南丹市立川辺小学校長
森岡 康彰	木津川市立山城中学校長
森 利夫	京都府立園部高等学校長

委員・作成作業部員

阿部 隆	長岡京市立神足小学校教諭
杉山 育代	木津川市立加茂小学校教諭
久保 克己	南丹市立宮島小学校教諭
波多野 暢	舞鶴市立与保呂小学校教諭
村井 寿代	与謝野町立市場小学校教諭
村田 寿美子	城陽市立北城陽中学校教諭
東 佳美	亀岡市立大成中学校教諭
宮田 千嘉	福知山市立南陵中学校教諭
起須 周平	京丹後市立間人中学校教諭
永井 宏和	京都府立東宇治高等学校教諭
荒木 元夫	京都府立北稜高等学校教諭

なお、京都府教育委員会においては、次の者が本書の編集に当たった。

水島 秀文	京都府教育庁指導部学校教育課総括指導主事
山埜 茂彦	京都府教育庁指導部高校教育課総括指導主事
松宮 功	京都府総合教育センター研修・支援部長
木村 正己	京都府教育庁指導部学校教育課指導主事
川畑 由美子	京都府教育庁指導部高校教育課指導主事
辻村 敬三	京都府総合教育センター主任研究主事兼指導主事
小林 園	京都府総合教育センター研究主事兼指導主事
森本 里美	京都府総合教育センター研究主事兼指導主事

(以上、職名は平成 25 年 2 月末現在)

平成 29 年 3 月改訂においては、次の者が編集に当たった。

飛田 祥	京都府教育庁指導部学校教育課指導主事
小林 園	京都府総合教育センター研究主事兼指導主事
春名 貴之	京都府乙訓教育局指導主事
濱田 昌一	京都府山城教育局指導主事
中舎 良希	京都府南丹教育局指導主事
中垣 真由美	京都府中丹教育局指導主事
白岩 恵美子	京都府丹後教育局指導主事

(以上、職名は平成 29 年 3 月末現在)

京都府小学校教育研究会道徳部会専門研究員

京都府中学校教育研究会道徳部会専門研究員

(以上、平成 29 年 3 月改訂に際し、資料提供等、御尽力いただきました。)

平成30年3月改訂においては、次の者が編集に当たった。

大岩 洋一	京都府教育庁指導部学校教育課指導主事
谷口 英太	京都府総合教育センター研究主事兼指導主事
春名 貴之	京都府乙訓教育局指導主事
橋本 正治	京都府山城教育局指導主事
中舎 良希	京都府南丹教育局指導主事
中垣 真由美	京都府中丹教育局指導主事
起須 周平	京都府丹後教育局指導主事

(以上、職名は平成30年 3 月末現在)

